

事業報告書

平成28年度

社会福祉法人 緑風会

特別養護老人ホーム 緑風館

緑風デイサービスセンター

小規模多機能「みどりの家」

居宅介護支援事業所 緑風館

緑風在宅介護支援センター

《 目 次 》

I	法人の概要	1～5P
II	介護老人福祉施設	6～23
III	短期入所生活介護事業	24～26
IV	通所介護事業	27～34
V	小規模多機能型居宅介護事業	35～37
VI	居宅介護支援事業	38～43
VII	在宅介護支援センター	44～45
VIII	地域交流	46～47

I 法人の概要

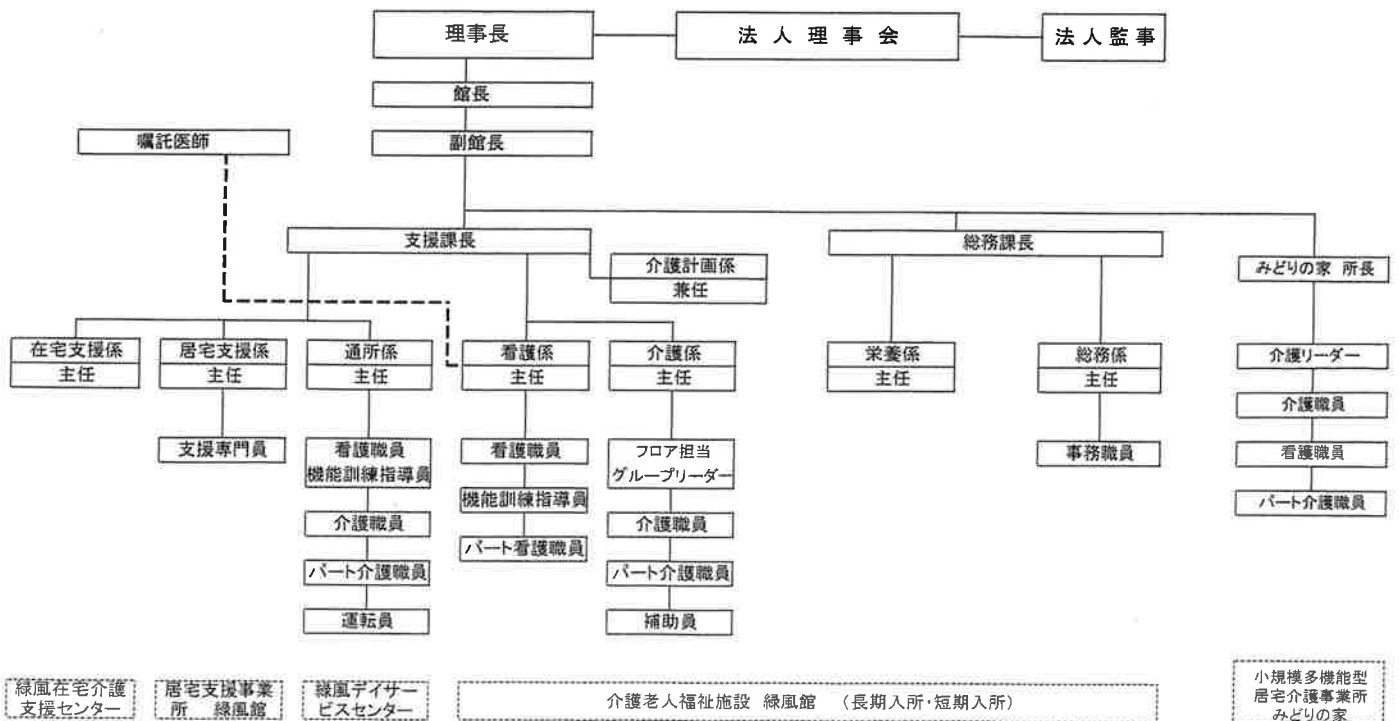
1 名称及び所在地

- [1] 名 称 社会福祉法人 緑風会
- [2] 所 在 地 兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
- [3] 法 人 認 可 平成6年2月7日

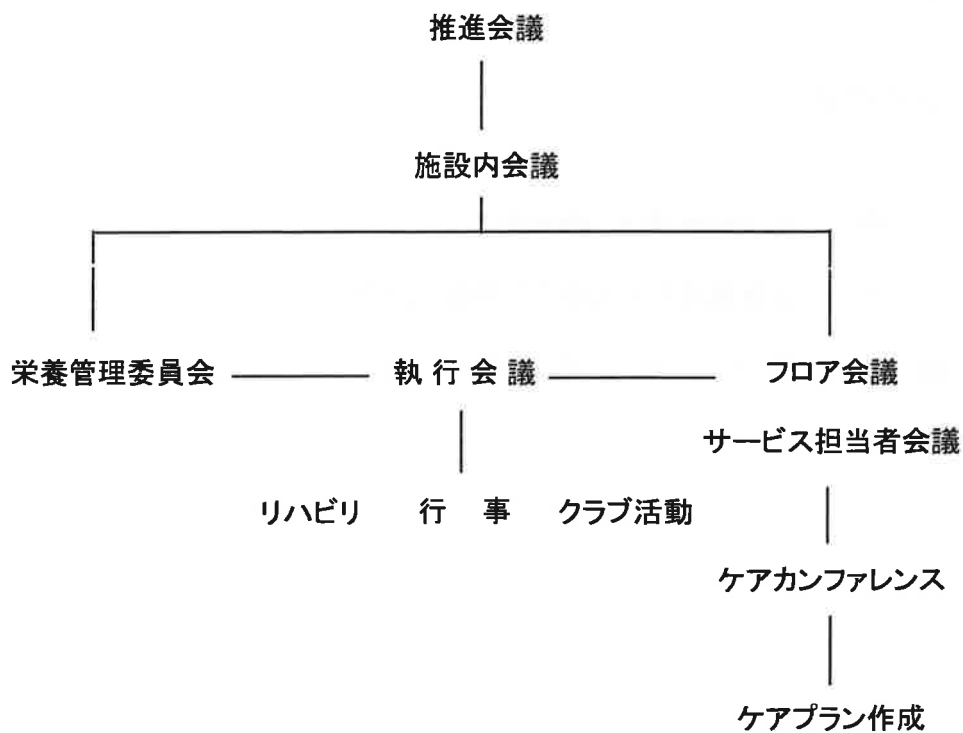
2 法人の組織

平成29年3月31日現在

緑 風 会 組 織 表



3 業務の運営体制



4 職員の勤務体制

事務職員	日勤	A M 9:00 ~ P M 6:00
ケアワーカー	早出	A M 7:00 ~ P M 4:00
	日勤	A M 10:00 ~ P M 7:00
	夜勤	P M 5:30 ~ A M 10:30
看護職員	日勤	A M 9:00 ~ P M 6:00

5 職員配置

〔1〕事業別職員配置

(平成29年3月31日現在)

区 分	介護老人福祉施設 特別養護老人ホーム 緑風館			通所介護 緑風デイサービス		居宅介護支 援緑風館		小規模 みどりの家		緑風在宅介 護支援セン ター		合 計		
	常 勤	非常勤	常 勤 換 算	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	合 計 人 数
施設長	1		1									1	0	1
管理者						1		1				2	0	2
事 務 員	2	1	2.5									2	1	3
相談員	1		1	1						1		3	0	3
介護支 援専門 員	1		1			1						2	0	2
ケアワ ーカー (うち介 護福祉 士)	21	10	26.7	3	4			6	7			30	21	51
	(15)	(1)	(15.4)	(1)				(4)	(4)			(20)	(5)	(25)
嘱 託 医 師		1	0.1									0	1	1
看 護 職 員	3	4	4.5	1				1				5	4	9
機能訓 練 指導員	1		1									1	0	1
栄養士	2		2									2	0	2
そ の 他		2	1.2									0	2	2
合 計	32	18	41	5	4	2	0	8	7	1	0	48	29	77

[2]事業別施設外研修の実績

職員の資質の向上を図るため次表のとおり外部研修会に派遣した。

研 修 内 容	特別養護老人 ホーム緑風館	緑風デイサー ビスセンター	小規模 みどりの家	居宅介護支援 緑風館	緑風在宅介護 支援センター	合 計
ケアプラン関係	4					4
認 知 症	3	4		2	1	10
医療・口腔・終末期 ケア	12		1			13
給 食 業 務	7					7
リスクマネジメント	3		1			4
行 政・保険・法改正	17	3	1			21
総 務 事 務	7			2	3	12
財 務 事 務	7					7
ケ ア マ ネ	1		7	34	15	57
資 格 取 得	11		1	8		20
福祉器具・施設見学	11	1				12
地域 サポート・ケア	4			9	22	35
サ ー ビ ス 評 価	10					10
そ の 他	29	5	4	2	8	48
合 計	126	13	15	57	49	260

6 28年度事業計画に対する実績(総務報告)

[1]収入状況

平成28年度は、外的要因による利用者数(年間延べ人数)の減少が顕著となった。

特養施設(長期入所・短期入所)では472人、緑風デイサービスセンターでは341人、居宅支援事業所では33人、小規模多機能型事業所みどりの家では192人とそれぞれ減少した結果、法人全体の収益が前年度に対して1875万円の減収となった。

【前年27年度】

区 分	利用人数	稼 動 率	介護保険収入	単価
	① (人)	(%)	② (円)	②÷①(円)
特養(長期・短期会計)	25,309	99	285,228,169	11,270
緑風デイサービス	5,926	92	47,366,235	7,993
居宅介護支援事業 緑風館	1,491		16,791,210	11,262
小規模多機能型居宅介護	7,089	78	60,327,680	8,510
合 計			409,713,294	

【28年度】

区 分	利用人数	稼 動 率	介護保険収入	単価
	① (人)	(%)	② (円)	②÷①(円)
特養(長期・短期会計)	24,837	97	279,034,441	11,235
緑風デイサービス	5,585	87	43,088,861	7,715
居宅介護支援事業 緑風館	1,458		15,632,780	10,722
小規模多機能型居宅介護	6,897	76	53,202,100	7,714
合 計			390,958,182	
前年差額			-18,755,112	

[2]情報の公開と機関誌発行

- ・ホームページのブログ等で最新情報や行事、初任者研修及び職員募集案内を発信した。
- ・施設サービスの情報や施設行事、各委員会等職員の取組みを「緑風だより」として年3回(9月・12月・3月)発行した。
- ・ホームページにおいて、27年度の財務諸表(緑風だよりにも掲載)及び事業報告書を公表した。

[3]地域サポート型特養実施状況

見守対象者数(延べ人数)	独居高齢者 6人 うち認知症 2人
見守り電話	443件/年
訪問回数	173件/年
内容	・見守り確認 ・薬の飲み忘れ確認 ・昼食準備 ・買い物付き添い ・金融機関等へ送迎等

Ⅱ 介護老人福祉施設

1 施設の概要

- 〔1〕名 称 特別養護老人ホーム 緑風館
- 〔2〕所 在 地 兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
- 〔3〕開 設 平成6年6月20日
- 〔4〕設 置 運 営 社会福祉法人 緑風会
- 〔5〕定 員 60名
- 〔6〕土 地・建 物
- 土地面積 2,742.36㎡
- 建物構造 鉄筋コンクリート造り 3階建(一部4階)
- 建物延面積 3,020.41㎡

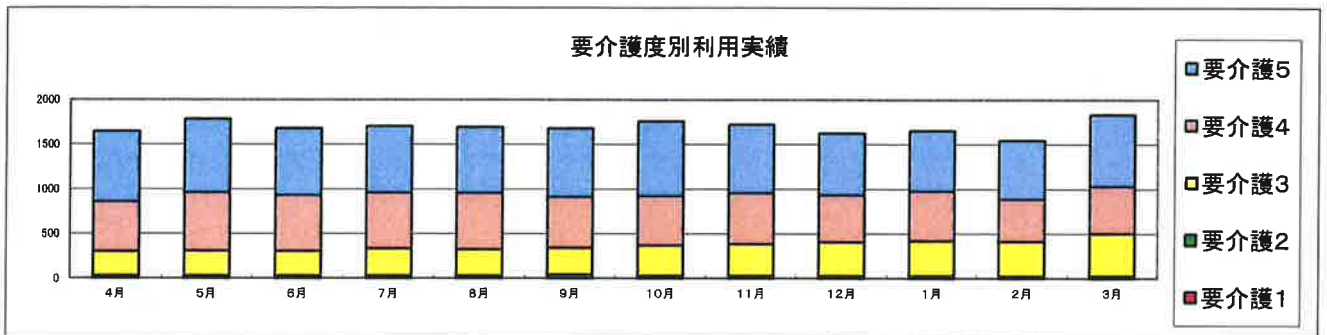
2 入所者の状況

〔1〕月別入退所者数

区分	6~ 27年	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	28年 度計	累計	男	女
入所者数	369	3	4	2	0	3	2	1	2	3	0	6	1	27	396	107	289
退所者数	310	3	3	3	2	2	1	2	0	4	4	0	2	26	336	95	241
月末 在所者数		59	60	59	57	58	59	58	60	59	55	61	60				

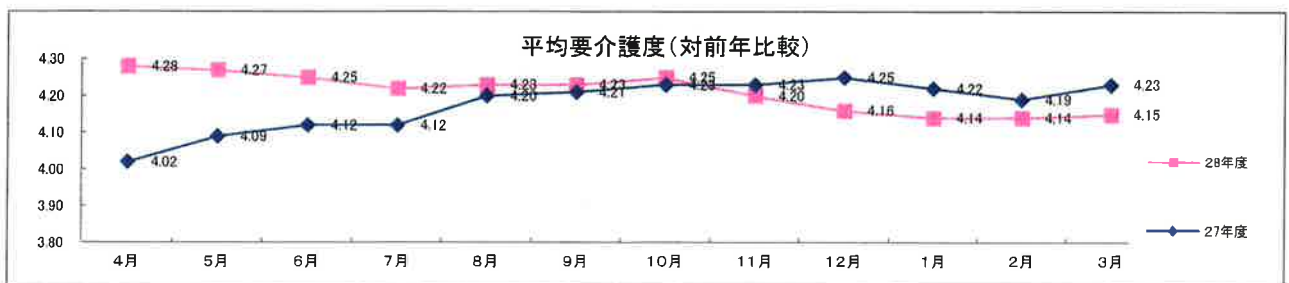
[2]要介護度別利用実績

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
平成 28 年度	要介護1	人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		延	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	要介護2	人	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	13
		延	30	31	30	31	31	41	31	30	31	31	28	31	376
	要介護3	人	11	10	10	10	11	10	12	12	14	13	16	16	145
		延	270	278	274	302	291	300	340	356	374	389	385	474	4033
	要介護4	人	22	23	22	21	22	21	19	20	20	19	18	18	245
		延	559	653	624	627	634	569	551	569	530	556	473	526	6871
	要介護5	人	28	29	29	27	26	27	28	27	28	26	26	27	328
		延	785	819	749	744	735	769	834	764	689	675	658	803	9024
	合計	人	62	63	62	59	60	60	60	60	63	59	61	62	731
		延	1644	1781	1677	1704	1691	1679	1756	1719	1624	1651	1544	1834	20304
	平均介護度		4.28	4.27	4.25	4.22	4.23	4.23	4.25	4.20	4.16	4.14	4.14	4.15	4.21



平均要介護度

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
27年度	4.02	4.09	4.12	4.12	4.20	4.21	4.23	4.23	4.25	4.22	4.19	4.23	4.18
28年度	4.28	4.27	4.25	4.22	4.23	4.23	4.25	4.20	4.16	4.14	4.14	4.15	4.21



〔3〕入所期間別状況

(平成29年3月31日現在)

区分	6ヶ月未満	6ヶ月以上 ～1年未満	1年以上～ 3年未満	3年以上～ 5年未満	5年以上～ 10年未満	10年以上	合計
男	3	3	1	5	0	0	12
女	7	8	13	11	8	1	48
合計	10	11	14	16	8	1	60

平均入所期間	1年5ヶ月
--------	-------

〔4〕年齢別分布状況

(平成29年3月31日現在)

区分	65～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100～	合計
男	3	2	0	4	2	1	0	12
女	2	2	10	9	15	8	2	48
合計	5	4	10	13	17	9	2	60

平均年齢	男性 83 歳	女性 88 歳	平均 87 歳
------	---------	---------	---------

最低年齢	68 歳	最高年齢	102 歳
------	------	------	-------

〔5〕身元引受人状況

(平成29年3月31日現在)

続柄	配偶者	子	孫	兄弟	甥・姪	成年後見人	その他	合計
人数	4	51	0	1	1	2	1	60

〔6〕退所事由別数調

区分	死亡		長期 入院	その他	合計
	施設	病院			
退所者数	8(4)	13	5	0	26

〔7〕入所前居住場所調

区分	在宅	療養 病院	老健 施設	療養型 施設	その他	合計
入所者数	10	11	2	0	4	27

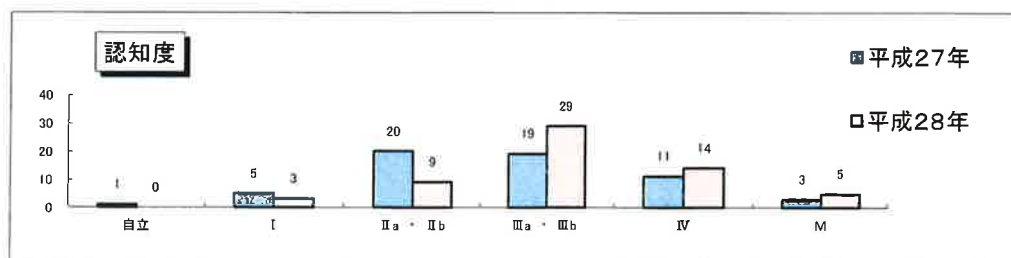
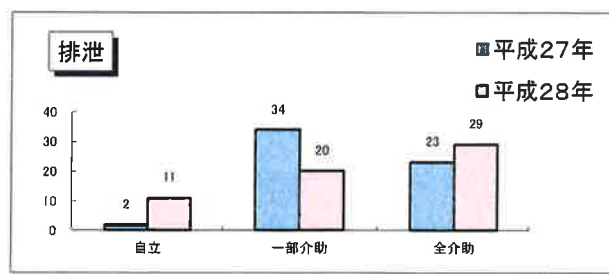
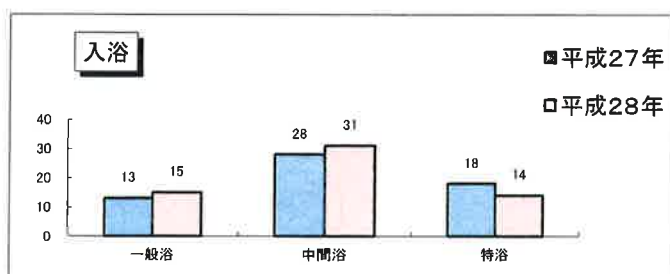
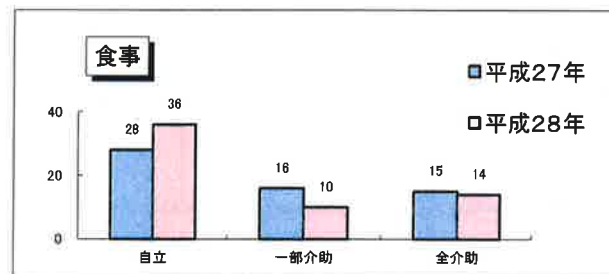
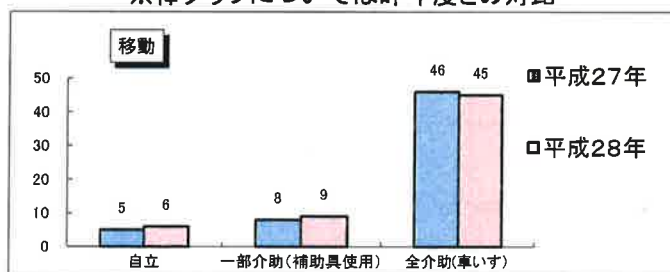
※()内は看取り介護の数

[8]入所者の日常生活・認知度状況

(平成29年3月31日現在)

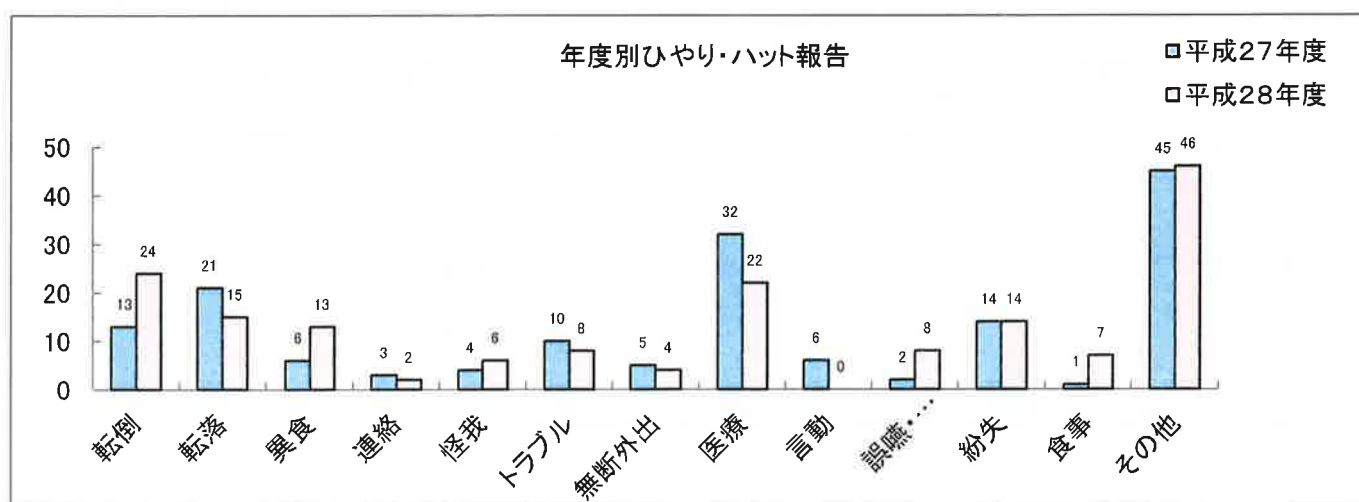
区分		27年度	1階	2階	3階	合計	割合
移動	自立	5	0	2	4	6	10%
	一部介助(補助具使用)	8	1	5	3	9	15%
	全介助(車いす)	46	15	21	9	45	74%
食事	自立	28	11	17	8	36	60%
	一部介助	16	2	6	2	10	17%
	全介助	15	3	5	6	14	23%
入浴	一般浴	13	2	6	7	15	31%
	中間浴	28	10	15	6	31	52%
	特浴	18	4	7	3	14	23%
排泄	自立	2	1	4	6	11	18%
	一部介助	34	8	9	3	20	33%
	全介助	23	7	15	7	29	48%
認知度	自立	1	0	0	0	0	0%
	I	5	2	1	0	3	5%
	II a・II b	20	2	4	3	9	15%
	III a・III b	19	9	11	9	29	48%
	IV	11	3	8	3	14	23%
	M	3	0	4	1	5	8%

※棒グラフについては昨年度との対比



[9]ひやり・ハット報告書作成状況

区分	27年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転倒	13	4	7	1	3	2	3	1	0	1	0	1	1	24
転落	21	1	2	1	4	1	0	0	1	0	0	3	2	15
異食	6	0	3	5	0	0	0	1	0	1	1	1	1	13
連絡	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
怪我	4	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	1	0	6
トラブル	10	0	1	0	0	2	2	0	2	0	1	0	0	8
無断外出	5	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	1	0	4
医療	32	0	5	3	0	2	0	1	3	3	1	1	3	22
言動	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
誤嚥・誤飲	2	1	0	0	0	0	2	2	0	0	2	1	0	8
紛失	14	1	1	1	0	1	1	0	1	2	3	3	0	14
食事	1	0	0	0	2	1	2	0	0	0	2	0	0	7
その他	45	2	4	2	2	5	5	2	5	1	9	6	3	46
合計	162	10	23	16	12	15	16	7	12	10	20	18	10	169



〔10〕 事故報告(市への報告事故)状況

区分	事故発生日	原因	事故内容	性別	受診先	入院の有無
1	平成28年4月2日	転倒	左大腿部転子部骨折	女	淡路医療センター	有
2	平成28年9月3日	転倒	左膝蓋骨折	男	翠鳳第一病院	無
3	平成28年9月12日	転倒	捻挫	女	八木病院	無
4	平成28年11月30日	転倒	右下肢骨折	女	淡路医療センター	有
5	平成29年3月25日	転倒	右大転子部骨折	女	淡路医療センター	有

〔11〕 苦情・要望状況

・苦情・要望報告書を作成する事により、利用者・家族の苦情(11件)、要望(2件)と思いの丈を知ることができ、これによる対応を迅速に行っている。

(家族よりの苦情・要望9件、本人よりの苦情・要望4件)

全職員が共有して対応することで、再発防止に取り組んだ。

3 平成28年度事業計画に対しての取り組みと結果

《介護部門》

〔1〕 介護計画係 (その人らしさの追求、ケアプランの充実)

・サービス担当者会議の充実

「平成28年度 職種別サービス担当者会議参加実績 (年間開催日数36回)」

職種	介護支援 専門員	生活相談員	看護職員	管理栄養士	介護係主任
参加回数	36回	27回	30回	33回	35回
参加率	100%	75%	83%	92%	97%

上表の通り、サービス担当者会議を定期開催することで利用者一人ひとりの課題を細かく検討し、専門性をもった視点でケアプラン化することができた。ただし、昨年度と同様、各専門職の参加率は低い水準にあるため、各専門職の安定した参加が実現できるよう努める必要がある。

「各種計画一覧表」や「ADL表」を毎月更新することで、各職種間の課題分析及び緊密な情報共有化を図ることができた。

・多様な様式による課題分析

「平成28年度 アセスメントツールの活用実績」

アセスメントツールの種類	気づきシート	センター方式 A-3	センター方式 A-3以外	包括自立支援 プログラム
延利用者数	104名	104名	9名	108名

利用者個々の状態に合わせた多様な書式の活用により、その人らしさの追求や自立支援を行い、生活の質の向上に繋げることができた。

・ケアプランの効果検証

ケアプラン作成・変更の2週間後のモニタリングは55名について実施し、効果検証を行った。

ケアプランの作成は合計127件作成し、家族や利用者に同意を頂いた。うち、定期更新以外の適時の変更が必要となった利用者について28名のケアプラン変更を実施することができた。

・自己決定への配慮と工夫

利用者が生活の各場面において自己決定ができることにより生活の質の維持・向上が図られ、また自己実現にも繋がるよう配慮をしてきた。

自己決定に対する具体的ケア内容
喫茶コーナー、作品作りの相談、DVD録画の相談と放映の希望、食事席選択「憩い処ふれあい」での余暇の選択、レクリエーション等の発案

・ケアカンファレンスへの参加

「本人及び身元引受人の参加実績」

区分	平成27年度	平成28年度	前年対比
開催回数	131回	140回	9回増
本人 参加回数	8回	7回	1回減
身元引受人 参加回数	127回	136回	9回増
本人及び身元引受人 参加率	100%	100%	同

「ケアカンファレンス参加者の続柄別内訳」

区分	配偶者	子	子の配偶者	孫	兄弟姉妹	甥・姪	成年後見人	その他	合計
参加延人数	11名	94名	56名	5名	0名	4名	5名	1名	176名
割合	6%	53%	32%	3%	0%	2%	3%	1%	100%

〔2〕 1階フロア

- ・安全面では、リスクマネジメント委員会と連携を図り、ひやりハット報告書、各種発見報告書、事故報告書において発生した時点では対応策を打ち出した。事故発生時には、看護職員と連携してご家族への連絡と報告を丁寧に行い、信頼と協力を得られるように対応した。フロア会議では、フロアスタッフ全員で各事例別に対応策の効果の確認と改善を行い、事故再発予防に取り組んだ。
- ・安心面では、安心して快適な生活が送れるようにフロア内の環境整備の見直しを行った。
- ・古くなったソファを買って替えて、利用者の快適性向上に繋がった。
- ・施設内研修後に、フロアスタッフ全員で利用者との良好な信頼関係作りや好ましい対応方法について考える機会を設けた。スタッフ全員が朗らかに生き生きと活動して利用者への良好な支援が実施できるよう取り組んだ。

- ・各委員会と連携を図り、利用者への安定したケアの提供を行った。フロア会議にて各委員からの報告を聞き、取り組む内容の確認を行いケアの実施に努めた。
- ・利用者と共に季節感のある飾り作りやクラブ活動を実施し、フロアのレクリエーションにて楽しい時間を共有できた。
- ・フロア環境整備の計画に挙げていた、車いすの利用者でも使いやすい洗面所への改修と整理整頓用の物置の設置については未実施となっており、次年度以降に取り組む課題となった。

〔3〕 2階フロア

- ・利用者と職員が休憩時間などを利用し関わる姿が見受けられた。利用者と深く関わることで利用者の思いを知ることができ、趣味、嗜好に添ったレクリエーションを計画し11回実施することができた。職員も利用者を楽しんでもらえるように工夫する姿勢がうかがえた。

4月		8月	おやつ作り	12月	フェイスタオル体操
5月	ボール投げ	9月	輪投げ	1月	福笑いゲーム
6月	玉入れ	10月	外食会	2月	ボール遊び
7月	風船バレー	11月	カラオケ	3月	梅見ツアー

- ・フロア会議では、個別にケア内容を検討し職員全員が共有しケアに取り組むことができた。ケア内容の変更については、看護職員、栄養士、ケアマネージャーとが連携を図り、より良いケアを実施することができた。
- ・申し送りは、引継帳を活用することで確実に行うことができおり、必要なケアを継続して実施できた。
- ・担当者が中心となり居室の整理整頓、清掃を行い、利用者、家族が持参した物品やクラブ趣味を活かした作品を利用者と共に飾りつけをし、安全で安心して過ごせるより良い環境づくりができた。
- ・フロア的环境については「環境を考える会」と連携を図り、利用者同士が一緒に過ごせる空間を作ることができた。
- ・古いソファの買い替えを目標にあげていたが、購入には至らなかったのので来年度は更新したい。

〔4〕 3階フロア

今年度は『本人らしさ』『快適な環境』『笑顔』『自立』に重点をおき支援してきた。



本人らしさ

- ・利用者一人ひとりに着目し、課題分析の上に本人の趣味や嗜好、性格や普段の暮らしぶりを参考にしながら支援が行えた。利用者及び家族から得た情報をもとに「利用者が好みやすいこと」「生きがいにつながること」が行えるよう側面的支援に努めた。本人らしく暮らしてもらえるよう利用者本人にもその都度意向を聞き、『字書いたりしてみたいわ。』『昔みたいにお化粧してみたいわ。』等といった声に答え、フロアで同じような趣味の方々の参加を募り、和気あいあいとした雰囲気の中、楽しむことができた。書道クラブやはいからクラブ(お化粧を楽しむ会)は毎月開催(年間各12回開催)することができた。



快適な環境

- ・ほのぼのとした空間でゆとりをもって過ごせるように心がけた。フロアにある和室について、殺風景であることを課題と捉え、『お家のような和室』をコンセプトに、利用者や職員と相談した。結果、カーペットやこたつ等を購入し配置した。特に冬場は足元が冷え込むのか、自然と利用者がこたつに足を入れに来られ、利用者同士が困らんする姿も多く見られるようになった。また、和を基調とした設えを用意した上で、アニマルセラピーの一環として飼育しているウサギ(風ちゃん)と共に過ごせる環境も好評で、ゆったりとした時間を味わえて、利用者も癒されている。



笑顔

- ・『笑顔』に関しては、法人理念でもある「私たちの願いはあなたの笑顔です」をもとに、普段から支援の中核として捉えている。利用者の要望をなるべく叶えていくことで、生きがいや喜びに繋がっていると感じている。今年度、フロアでのレクリエーションは合計40回開催。うち、初めて開催した「ミニ喫茶」は、事前に各利用者から『どういったものが食べたいですか?』と情報収集を行い、普段食べる機会が少ないメニューを加え、それらを選んで食べることで、大変好評だった。これら生活支援を工夫することで利用者の笑顔に繋がり、そして家族の笑顔、職員のモチベーションアップに繋がったと実感している。ただし、食を楽しむレクリエーションとしての食事づくりやおやつづくりは、昨年度よりは多く開催できたとはいえ、今年度も年間5回と少なかったことが課題と考えられる。今後、レクリエーションのあり方を今一度見直し、ケアの本質を引き続き探りながら、利用者の笑顔、家族の安心、職員のやりがいに繋がるよう邁進していきたい。また、緑風館への外部からの来館として、家族はもちろん、知人や友人の来訪も増えてきたように感じる。今後もより一層の来館が益々増えてもらえるよう、施設環境の工夫や職員の対応スキル向上に努めることで、地域の一員として、地域の笑顔にも繋げていく方針。



自立

・今年度も利用者の自立心をサポートすることで、利用者の『〇〇してみよう。〇〇がしたい。』という自己決定を表出できるよう支援してきた。普段の暮らしの中では、意図的に利用者が主体となるよう配慮してきた。レクリエーションについても、利用者から『やっぱり食べることを楽しんでいきたい。』という声を反映し、職員と利用者が相談しながら「喫茶コーナー」や「ミニ喫茶」の開催を実施できた。利用者に食べたいものを自由に選んでもらうことで自己決定を勧めることもできた。これにより本人らしさを感じ取れ、生きがいにも繋がっているように感じる。また、3階フロアにはDVD設備が備わっており、利用者の意向を聞いてダビングし、日中は随時希望に沿った番組を放映している。

〔5〕 看護係

- ・他職種連携を図り床ずれゼロを目指してきたが、1件の発生があった。
- ・月1回の協力歯科医(奥田歯科)の協力により、個々に応じた口腔ケアが実施できた。
- ・28年度の看取り介護実施者は4名であった。

[6] 委員会の充実

【リスクマネジメント委員会・身体拘束廃止委員会】

- ・リスクマネジメント委員会・各フロア会議を、毎月1回実施し、事故報告書の分析と個別ケア検討を実施し、再発防止に努めた。事故件数(市への報告事故)は5件であった。
- ・介護事故の根絶を目指すための施設内研修を行いリスクマネジメントの基礎知識や事故防止活動の具体的な取り組み例を学ぶことで、職員のスキルアップに繋げることができた。
- ・人権擁護については、不適切ケアが現場でどのような場面で起きているのかDVDを鑑賞し、全職員で共有し理解を深めることができた。日常のケアを振り返ることができた。

【感染予防委員会】

- ・随時、感染症の発生情報を把握することで、早めの予防に努めることができた。
罹患や蔓延を防ぐために、来館者の施設内訪問を1月19日～2月28日まで中止した。
- ・全職員を対象に研修会を年2回実施し、手洗いやうがいの励行喚起等の予防を徹底したことで感染症と食中毒を阻止することができた。
- ・研修会では、ノロウイルスマニュアルに沿って実践訓練を実施した。また、嘔吐者に対する的確な処置方法を学ぶことで感染症への確実な対策訓練となった。

【食と健康を考える会】

- ・食器や摂取用具については都度、利用者の状態等に合わせ変更し、自身で食べるできるように支援した。今年度の食事形態変更者は150名(延人数)、食事摂取用具変更者は65名(延人数)であった。
- ・食事環境については食卓にランチョンマットを使用したり、造花を飾ることで明るい雰囲気演出する事ができ、利用者からも『きれい。』『ええ感じ。』と好評だった。また、利用者の状態や他者との関係性にあわせ、テーブルや食事席を変更し、楽しく笑顔で食事ができるように配慮した。
- ・口腔ケアに関しては奥田・有馬医師により、毎月、健診を行うことで口腔内の衛生状態や義歯の噛み合わせ、装着具合を把握することができ、安全に食べることに繋がった。
今年度の健診者は91名(延人数)であった。また誤嚥性肺炎で入院された方は、平成27年度は3名で、28年度は4名となった。
- ・嚥下機能が低下している利用者に対する「経口による継続的な食事摂取の為の取り組み」については、毎月チェックシートに食事の様子を記録し、課題があれば他職種で検討することで、安全に美味しく食べるための支援ができた。今年度の取り組み人数は291名(延べ)であった。
- ・職員のスキルアップについては委員で口腔ケア及び食事についての施設外研修に参加することで、口腔内の観察の仕方や食べる姿勢についてを施設内研修で発表し、全職員に対して食に対する知識を得る事ができた。

【排泄委員会】

- ・個別排泄ケアとして年2回(6月と12月)の尿量測定と、定期的な見直しを実施し、44名の方が排泄用具の変更を行う事ができた。

- ・紙パンツから下着(コットンパンツ)へ、12名の方に対して見直しを行う事で10名の方が快適性の向上やコストの削減を達成する事ができた。
- ・スムーズな排便への取り組みとして、昨年度46件、今年度43件の事例を検討した結果、31名の方は継続して効果が表れた。
- ・トイレ終了後のハンドソープを使用しての手洗いを徹底した。洗面所での手洗いが困難な利用者は、手拭シートで手指消毒を実施している。
- ・花王による勉強会に参加して、おむつの当て方や新商品についての知識を習得できた。また、他施設見学を行い、見学先では、排泄時のプライバシーの保護への考え方や尿量測定用紙、排泄表の電子化、下剤の服用基準などを改めて知る事ができた。新商品を試行観察する事で利用者にとって快適な排泄用具の検討ができた。
- ・排泄用タオルの枚数が減少しているため、各フロアの排泄委員は毎月枚数を確認している。また、タオルと汚物を分けてバケツへ入れることを徹底し、タオルの減少は少し改善している。

【入浴委員】

- ・利用者の入浴に関するアンケートを行い、個人別入浴援助方法を作成し実施(年3回)した。各フロアスタッフ全員と全利用者の個別情報の共有を図り、利用者の機能に応じた個別支援の向上とケアの安定化に努めた。
- ・毎月の入浴委員会にて、個々の利用者の状態変化や対応するケアの変更を検討し、一般浴、個浴、中間浴、特浴介助の適正化を図り、入浴予定表を随時更新した。
- ・期間限定の季節湯を提供し、お風呂の楽しみと快適性の向上に努めた。季節湯実施期間以外にも楽しめる入浴として、随時入浴剤を使用し楽しむことができた。季節湯の案内ポスターも随時作成し、各所に掲示して利用者にわかり易く案内することができた。来館者へも入浴委員会活動のアピールにも繋がった。
- ・備品の準備や補充を着実にを行い、不足や不具合とならないよう取り組んだ結果、利用者の快適性の向上に繋がった。
- ・今年度は、介護職員初任者研修の講師として入浴委員から3名が参加したことで、入浴の支援についてさらに勉強し、ケアの向上を考える機会となった。

【認知症委員会】

- ・「ふるさとツアー」を企画し、2名の利用者が参加した。自宅に帰り、家族と一緒に過ごし思い出話をする事で昔を懐かしんでもらえることができた。センター方式[私の暮らし方シート:B-3]を活用して、以前の暮らし方を把握し、ケアに活かすことができた。
- ・1階2名、2階1名、3階2名に対して、個々にあったセンター方式のシートを活用した。利用者の状況をより深く理解することができ、新たなケアに活かすことができた。
- ・うさぎ(風ちゃん)とふれあう機会を設ける為に4ヶ月交代で各階に移動したが、アニマルセラピーの効果に繋がらなかったが、利用者2名が水の交換や餌やりを日課として実施できた。
- ・言葉かけアンケートを実施した。また、1月には言葉についての施設内研修を開催し、グループワーク内で意見交換を行い話し合った結果、言葉の大切さの再確認をすることができた。

・認知症ケア委員会で取り組んだ「ふるさとツアー」に関して、平成28年度の近畿老人福祉研究協議会(京都大会)で発表することで、職員のキャリアアップに繋がった。

【環境を考える会】

- ・勉強会を行い、環境とキャプションシート(環境課題抽出シート)について学ぶことができた。
- ・キャプションシート(環境課題抽出シート)に関して、委員会メンバーが各セクションに赴き、環境についての良い面、思わしくない面を洗い出し、特に思わしくない面については検討し、より良い環境に繋がった。その結果、年間を通して計23ヶ所を改善することができた。

【1階】合計5ヶ所

《改善前》



《改善後》



《改善後の状況》

見た目もよくなり利用者にとって座り心地がよく快適に過ごすことができるようになり、利用者からも喜びの声が聞かれた。

【2階】合計8ヶ所

《改善前》



《改善後》



《改善後の状況》

憩いの場所ができ、テレビを観る利用者が増えた。

【3階】合計5ヶ所

《改善前》



《改善後》



《改善後の状況》

落ち着いて家庭的な雰囲気を感じられる環境になった。自らコタツでテレビを観る利用者が増えた。

【デイ】合計5ヶ所

《改善前》



《改善後》



《改善後の状況》

利用者が自ら用具を持ち出し、整理することで自立支援に繋げることができた。

- ・2月にはキャプションシート(環境課題抽出シート)についての施設内研修を開催し、全職員へ発信するとともに、改めて環境面での課題について検討し、来年度に向けた改善策を打ち出すことができた。

【ポジ・トラ委員会(ポジショニング・トランスファー)】

- ・シーティングは、勉強会を実施し、委員会内で身体構造の動きを理解する。
- ・各階対象者を選び、安楽で活動しやすい姿勢を委員会で検討し、改善に繋げた。
各階1名合計3名の利用者を対象とし、委員会で実施内容の状況報告を行う。
結果、1階は良好。2階、3階では、長時間の姿勢保持はできなかったが、活動しやすい姿勢保持には繋げる事ができた。



- ・移乗・移動・体位変換に関する補助用具を委員で調べ勉強会を実施した。
- ・姿勢が安定する車椅子の試行を各階で実施した。
結果、1階、2階、3階では座面部分が小さい為、ずり落ちる可能性があり適していなかった。
- ・各階対象利用者を選び個々に合ったクッションの当て方と体位変換の方法を委員会で検討と実施内容の状況報告を行う。各階より1階2名、2階2名、3階1名、合計5名の利用者の実施ができた。結果は、各階良好であり、快適で安楽な姿勢保持の継続と床ずれ、拘縮予防に繋げる事ができたと思われる。又、写真を掲示する事により職員全体が統一したクッションの位置と体位変換の実施ができた。



- ・施設外研修では、福祉用具、シーティング・ポジショニングの施設外研修に参加する事ができ、施設内研修で発表を行う事で新しい知識と技術の向上に努める事ができた。
- ・外部より講師を招き、委員会メンバー、看護職員、新人職員と合同で進化していく福祉用具のエアーマットの体験、床ずれに関する勉強会を実施し最新の知識や情報を得ることができた
- ・移乗・移動、楽ワザ介護術のDVD観賞を行い、介護術の勉強をした。楽ワザ介護術は実際の現場での使用は難しかった。
- ・床ずれに対するケアと予防としての発赤判定ツールの活用については、毎月全体の床ずれに関する状況報告と委員会で発赤判定ツールの活用方法について検討を行った。
各階2ヶ月毎に発赤判定ツールの使用状況と対応内容の報告を実施することができた。
発赤判定ツールの使用結果、1階⇒1件、2階⇒7件、3階⇒3件の発赤がみられ各階エアーマットの使用と体位変換、栄養補助剤で対応を行い、床ずれまでには至らなかった。
- ・今年度は、床ずれ件数1件であり、発赤判定ツールを効果的に活用できた。

【広報委員会】

〈機関紙〉

- ・ 広報誌を年に3回発行し、法人全体の情報を利用者、家族、地域の方々に発信した。

	発効日	部数	配布先
緑風だより第30号	9月10日	300部	<ul style="list-style-type: none"> ・特養、デイ、みどりの家の利用者家族 ・島内他施設、事業所、みどり診療所 ・緑風館来訪者、民生委員、専門学校など
緑風だより第31号	12月10日	300部	
緑風だより第32号	3月10日	300部	

〈ホームページ〉

- ・ ホームページ内において、職員募集・介護職員初任者研修募集などを掲載した。
これを見て募集の問い合わせがあり、応募や採用に繋がった。
- ・ 28年度はホームページに52件(月の平均掲載数は4.3件)、の記事を掲載し、合計閲覧数は12321回だった。特に1月から3月にかけては27年度の合計閲覧数1972件に対し、4367件と大きく増やすことができた。フェイスブックに関して、60件の記事を掲載し、合計1276件の評価、リアクションを得ることができた。

【衛生委員会】

緑風会における職員の安全と健康を推進することで、快適な職場環境の形成に努めた。

〈安全関係〉

・4S活動(整理・整頓・清掃・清潔)活動の実施

労働災害が予測できる「作業環境」や「作業内容」「疾患等罹患リスク」を定期検証することができた。各部署においては「これだけはやめよう」「これだけはやろう」という目標設定を行い、具体的な内容を打ち出すことで意識を持つようになり、改善することができた。

・労働災害の予防及び改善

労働災害が予測できる「作業環境」や「作業内容」「疾患等罹患リスク」を定期検証することで災害発生予防に繋がり、労働災害は0件であった。

「検証数」

(件)

部署	作業環境検証数	作業内容検証数	罹患リスク検証数
事務所	8	4	3
デイサービス	5	2	2
特養	15	8	7
みどりの家	7	3	4
合計	35	17	16

・感染予防対策

委員会内で穀内純江医師より、インフルエンザやノロウイルス等の感染性胃腸炎への罹患予防に対する助言を適時頂いている。

・施設内の床材等の補修・改修

法人内の床材等の剥離や劣化箇所について年1回調査を行うことで、安全で快適な環境を目指している。

「修繕箇所」 (件)

事業所	修繕箇所数
緑風館	33
みどりの家	1

〈衛生関係〉

・定期健康診断

夏季、冬季の二期に実施。有所見者には二次検査受診を督促することで、職員の健康保持に繋がっている。

・メンタルヘルス

職員のメンタルヘルスについて、現状とその問題点を定期的に検証することで、その実態に応じて具体的に検討し改善に繋がった。ストレスチェック制度の活用は実施できなかったため、来年度には実施していく方針。

「メンタルヘルス検証数」 (件)

部署	検証数
事務所	5
デイサービス	4
特養	12
みどりの家	5
合計	26

・腰痛検査

上記、作業・作業環境・健康の3つの管理と労働衛生について検証した上で、腰部保護ベルトの使用状況調査を継続的に行い、状況の把握と改善に繋がった。

「介護職員腰部保護ベルトの使用頻度」 (名)

	常用	頻繁	痛い時	ほとんど未使用	夜勤時のみ	未使用	利用率
腰部保護ベルト 使用者数 (総数53名)	13	3	7	6	0	24	54.72%

【地域貢献委員会(みどり元気応援隊)】

平成28年度の目標「地域を知り、緑風館を知ってもらう」、計画「緑地区の会に出向いていき、地域住民と職員の良い関係を築き身近な存在となり、何かあれば相談できる存在になる」と設定して活動した。

〈地域の交流の場を提供〉

・平成27年6月より、不藤地区と広田南地区の住民の方に対して、毎週木曜日9時30分より緑風館の食堂をいきいき百歳体操実施場所として提供している。登録者20名、平均10名の地域住民の



方が参加されている。

<地域住民の24時間見守り支援(地域サポート型特養)>

- ・平成27年8月より、1人暮らしの高齢者や高齢者世帯の方に見守りサービスを行った。
平成29年3月末現在の登録者は2名である。

<地域住民への広報>

- ・6月に山添地区サロンに参加して、緑風館の事業と介護保険についての勉強会を開き、交流を図ってきた。また、「福祉の知っとこ出前講座」のちらしを作成し配布した。
職員が地域に出向いて、緑風館を知ってもらう活動を行った。

<ペットボトルのふた、プルタブの寄付>

- ・職員や来館者の協力によりペットボトルのふたとプルタブを収集して、南あわじ市社会福祉協議会へ寄付した。職員や面会者、いきいき百歳体操参加者が、社会に対して何か貢献していこうとする意欲を理解することができた。

<広田梅まつりの運営の協力>

- ・地域の身近な観光地である広田梅林で、老人会の方と交流を深めながら運営の手伝いを行った。委員会メンバーだけでなく、法人職員から募集して、17名(延べ)が参加した。



<高齢者等の見守り・SOSネットワーク事業への登録>

- ・行方不明になる恐れのある認知症高齢者等を日頃から見守り、行方不明となった場合に早期に発見できる体制を整えることを目指した事業への登録を行った。住み慣れた地域で安心、安全に暮らせるように協力機関として努めていく。

≪給食部門≫

[1] 栄養管理委員会

平成28年度は、食事サービス提供業務が直営から委託業者へ変更になった。そのため利用者へ食事が円滑に提供できるよう栄養管理委員会を毎月1回開催し、情報の共有・交換を行い連携を図った。

[2] 食事サービス

- ・毎月フロアで催す喫茶コーナーでは、希望を聞き取り、メニューに反映させることで、好みのものを選んで食べてもらい利用者の笑顔につながった。特にたこ焼き、いなり寿司、ケーキが人気だった。
- ・毎月恒例の「ふれあい食事会～秋を味わうバイキング」では、委託業者と相談を密にすることで、スムーズに食事を提供する事ができた。また、その場で天ぷらを揚げてもらい利用者及び家族から好評を得ることができた。
- ・利用者からの献立に対する要望を専用の意見帳に記入してもらうことで、献立の検討を行い対応することができた。
- ・委託業者と連携を強化することで、利用者全体の喫食率は平成27年度97%が平成28年度も97%と目標を達成することができた。

〔3〕 各種加算状況

平成28年度の各種加算状況は次のとおりであり、収入の確保に努めた。

「経口維持加算Ⅰ・Ⅱ」 加算報酬額：(Ⅰ)単価 4000円(月) (Ⅱ)単価 1000円(月)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
対象者	Ⅰ	24	26	26	23	24	22	24	25	26	24	23	24	291
	Ⅱ	0	25	21	23	24	22	23	24	25	24	23	24	258

「療養食加算」 加算報酬額：一人当たり単価180円(日)

療養食全体		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
対象者	実数	29	37	32	32	32	32	34	34	34	33	34	35	
	延日数	845	935	873	962	944	953	991	990	939	965	892	1036	11,325

「ショート療養食加算」 加算報酬額：一人当たり単価230円(日)

療養食全体		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
対象者	実数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	
	延日数	11	15	18	22	15	17	19	17	21	31	3	0	189

〔4〕 栄養ケア・マネジメント

- ・多職種と連携をし、食事摂取量が減少した利用者に対しては、いち早く栄養ケア・マネジメントに取り組みを行った。また、褥瘡の発生予防及び発生後の悪化防止のため、状態にあわせた栄養管理を行った。28年度は、43名の利用者に対し栄養剤等の提供を行った。
- ・夏期(7月～8月)においては、経口補水液を提供し、猛暑による脱水症を避けることができた。

〔5〕 経費削減

- ・平成28年度の給食食材費は、利用者1日1人当たり800円目標のところ、799円で執行することができた。

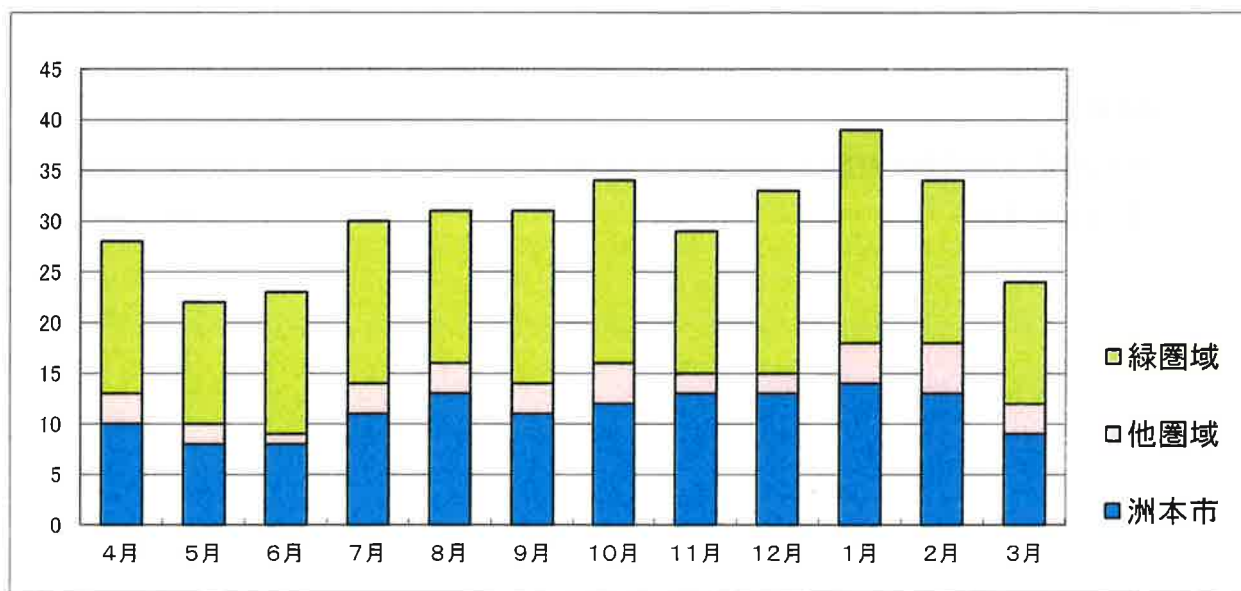
Ⅲ 短期入所生活介護事業

1 施設 の 概 要

- [1] 名 称 特別養護老人ホーム 緑風館
- [2] 所 在 地 兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
- [3] 開 設 平成6年6月20日
- [4] 設 置 運 営 社会福祉法人 緑風会
- [5] 定 員 10名

2 市町別利用状況

区分		平成28年度												合 計	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
南あわじ市	緑圏域	実人数	15	12	14	16	15	17	18	14	18	21	16	12	188
		延人数	256	186	207	245	215	199	208	194	179	194	192	192	2467
	他圏域	実人数	3	2	1	3	3	3	4	2	2	4	5	3	35
		延人数	55	21	21	48	53	45	46	20	23	48	51	23	454
洲本市	実人数	10	8	8	11	13	11	12	13	13	14	13	9	135	
	延人数	109	117	102	128	145	137	151	144	166	194	120	99	1612	
実人数合計		28	22	23	30	31	31	34	29	33	39	34	24	358	
延人数合計		420	324	330	421	413	381	405	358	368	436	363	314	4533	

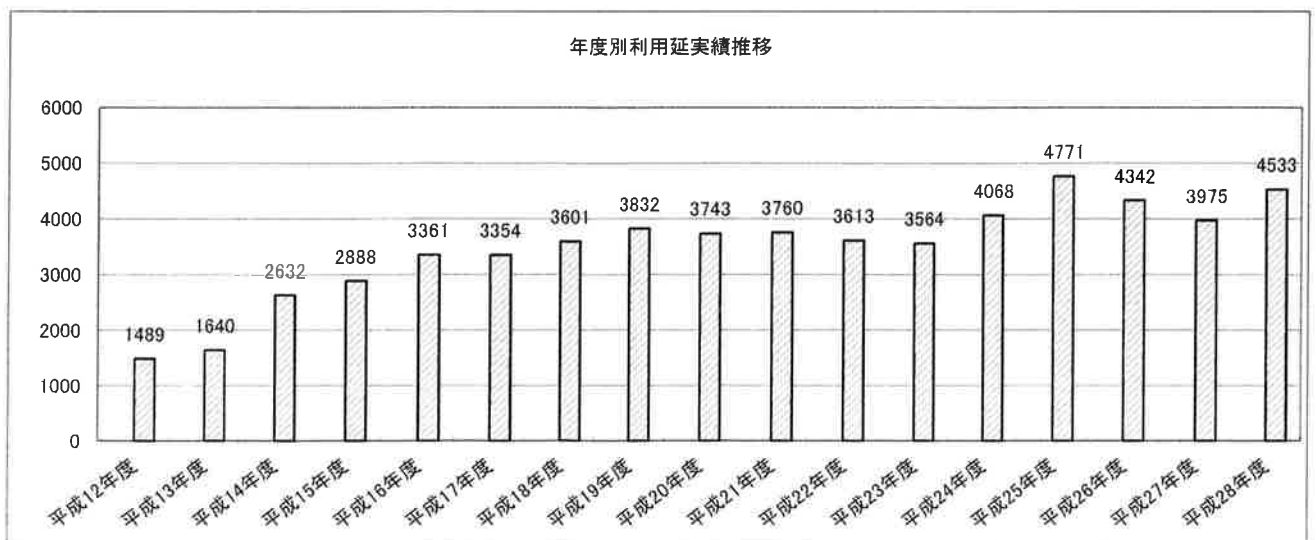


3 利 用 実 績

〔1〕年度別延利用実績

合計(延べ利用日数) 平均(1日あたり利用人員)

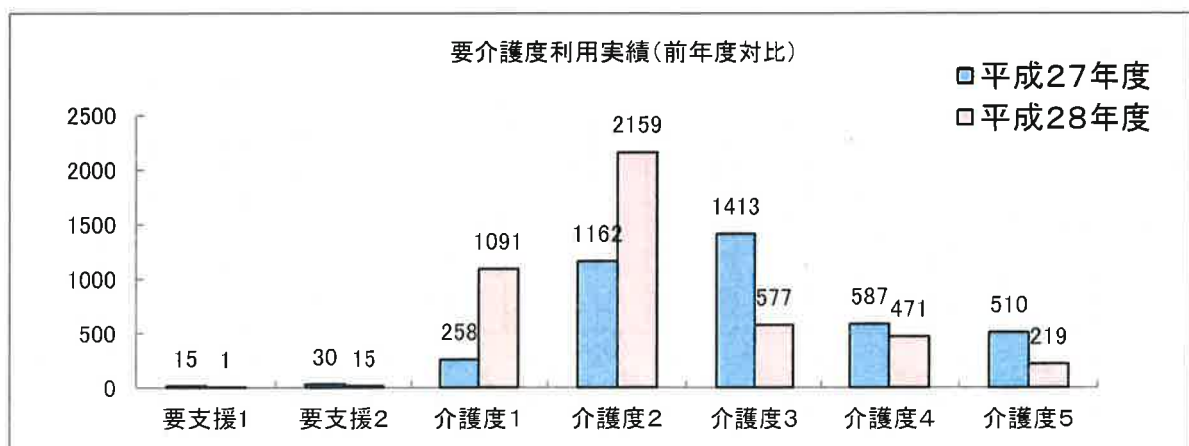
区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
平成12年度	38	98	140	94	75	103	114	114	152	149	194	218	1489	4.1
平成13年度	122	83	180	152	147	92	144	78	118	165	184	175	1640	4.5
平成14年度	208	205	220	208	261	216	234	226	236	249	200	169	2632	7.2
平成15年度	210	258	265	239	309	258	228	241	230	229	203	218	2888	7.9
平成16年度	247	273	282	275	266	226	277	329	308	306	265	307	3361	9.2
平成17年度	222	295	290	315	276	274	282	227	296	294	263	320	3354	9.2
平成18年度	308	338	349	381	330	288	304	241	246	283	259	274	3601	9.9
平成19年度	283	320	295	257	316	307	365	360	323	289	359	358	3832	10.5
平成20年度	294	294	286	274	326	320	342	316	354	328	289	320	3743	10.2
平成21年度	316	315	294	332	316	296	300	312	296	314	306	363	3760	10.3
平成22年度	320	332	321	312	295	285	302	262	241	264	305	374	3613	9.9
平成23年度	340	323	289	274	283	280	272	295	308	306	295	299	3564	9.7
平成24年度	361	385	364	325	331	333	325	311	340	355	316	322	4068	11.1
平成25年度	334	372	397	326	446	420	405	379	396	416	426	454	4771	13.1
平成26年度	408	362	355	363	375	362	345	349	373	381	321	348	4342	11.9
平成27年度	305	359	331	330	348	324	236	303	354	349	331	405	3975	10.9
平成28年度	420	324	330	421	413	381	405	358	368	436	363	314	4533	12.4



[2] 要介護度別利用実績

区分		27年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	人	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	延	15	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	平均	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
要支援2	人	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	延	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	0	15
	平均	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.0	0.0	15.0
要介護1	人	46	7	5	7	11	10	6	10	9	8	12	8	5	98
	延	258	97	74	130	137	91	67	82	73	52	109	94	85	1091
	平均	5.61	13.9	14.8	18.6	12.5	9.1	11.2	8.2	8.1	6.5	9.1	11.8	17.0	11.1
要介護2	人	101	9	9	8	10	12	15	15	15	17	15	13	10	148
	延	1162	120	129	128	171	201	221	243	219	242	193	158	134	2159
	平均	11.5	13.3	14.3	16.0	17.1	16.8	14.7	16.2	14.6	14.2	12.9	12.2	13.4	14.6
要介護3	人	75	7	4	3	4	5	5	5	2	2	6	8	7	58
	延	1413	112	63	29	71	61	44	36	12	13	40	49	47	577
	平均	18.8	16.0	15.8	9.7	17.8	12.2	8.8	7.2	6.0	6.5	6.7	6.1	6.7	9.9
要介護4	人	48	2	2	3	3	3	3	2	2	4	3	3	2	32
	延	587	47	25	30	30	52	40	31	36	49	39	44	48	471
	平均	12.2	23.5	12.5	10.0	10.0	17.3	13.3	15.5	18.0	12.3	13.0	14.7	24.0	14.7
要介護5	人	25	3	2	2	2	1	1	2	1	2	3	1	0	20
	延	510	44	33	13	12	8	8	13	18	12	55	3	0	219
	平均	20.4	14.7	16.5	6.5	6.0	8.0	8.0	6.5	18.0	6.0	18.3	3.0	0.0	11.0
合計	人	299	28	22	23	30	31	31	34	29	33	39	34	24	358
	延	3975	420	324	330	421	413	381	405	358	368	436	363	314	4533
	平均	13.3	15.0	14.7	14.3	14.0	13.3	12.3	11.9	12.3	11.2	11.2	10.7	13.1	12.4

※ 人(実人員) 延(延べ利用日数) 平均(ひとり当り利用日数)



IV 通所介護事業

1 施設の概要

- [1] 名 称 緑風デイサービスセンター
- [2] 所在地 兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
- [3] 開 設 平成6年7月1日
- [4] 設置運営 社会福祉法人 緑風会
- [5] 利用定員 25名

2 利用者状況

[1] 月別利用者数

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実開所日		21	22	22	21	23	22	21	22	21	20	20	23	21.5
新規利用	要支援	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0.0
	要介護	2	0	2	0	0	1	1	1	0	1	1	0	0.8
要支援	実	11	11	11	10	10	11	14	11	10	11	12	12	11.2
	延	82	90	89	65	80	76	100	93	84	85	77	100	85.1
要介護	実	39	40	41	43	41	44	42	41	42	40	39	34	40.5
	延	389	378	409	404	404	407	392	390	376	357	310	348	380.3

(注) 平均は、少数点以下第2位を四捨五入しています。

[2] 利用平均数

開所日数	258	月平均	465.4	1日平均	21.6
------	-----	-----	-------	------	------

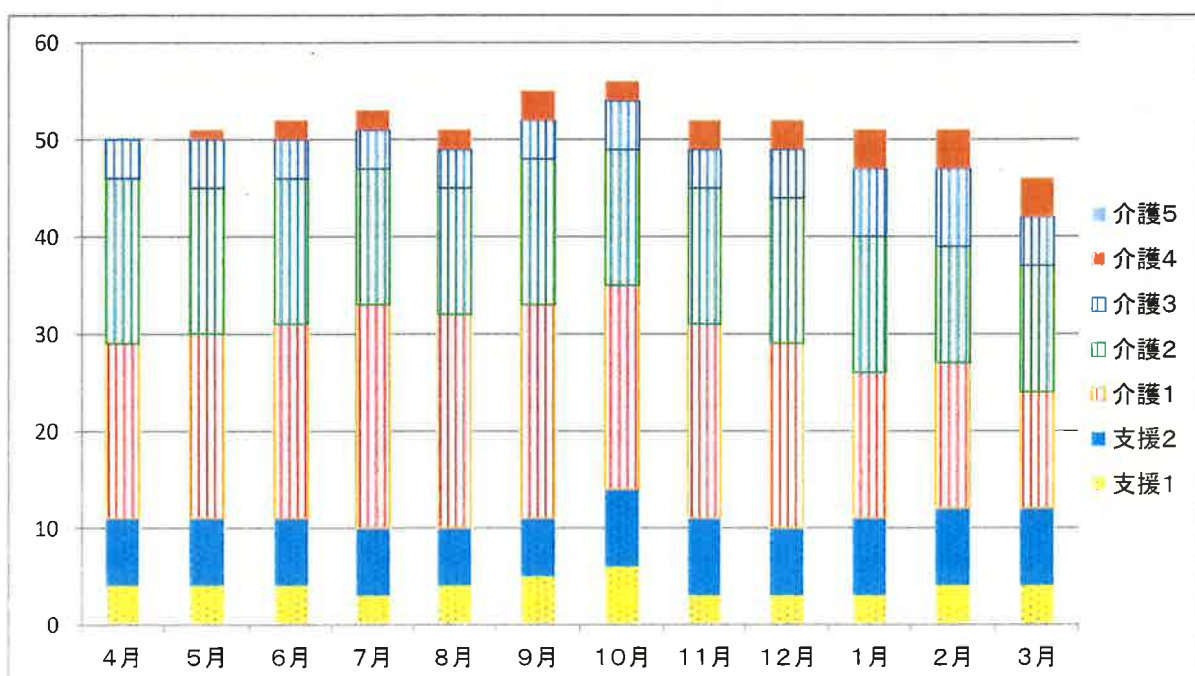
3 要介護度別利用状況

[1]平成28年度 実人数

要介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
要支援1	4	4	4	3	4	5	6	3	3	3	4	4	3.9
要支援2	7	7	7	7	6	6	8	8	7	8	8	8	7.3
要介護1	18	19	20	23	22	22	21	20	19	15	15	12	18.8
要介護2	17	15	15	14	13	15	14	14	15	14	12	13	14.3
要介護3	4	5	4	4	4	4	5	4	5	7	8	5	4.9
要介護4	0	1	2	2	2	3	2	3	3	4	4	4	2.5
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
総合計	50	51	52	53	51	55	56	52	52	51	51	46	51.7

(注) 平均は、少数点以下第2位を四捨五入して

実人数表

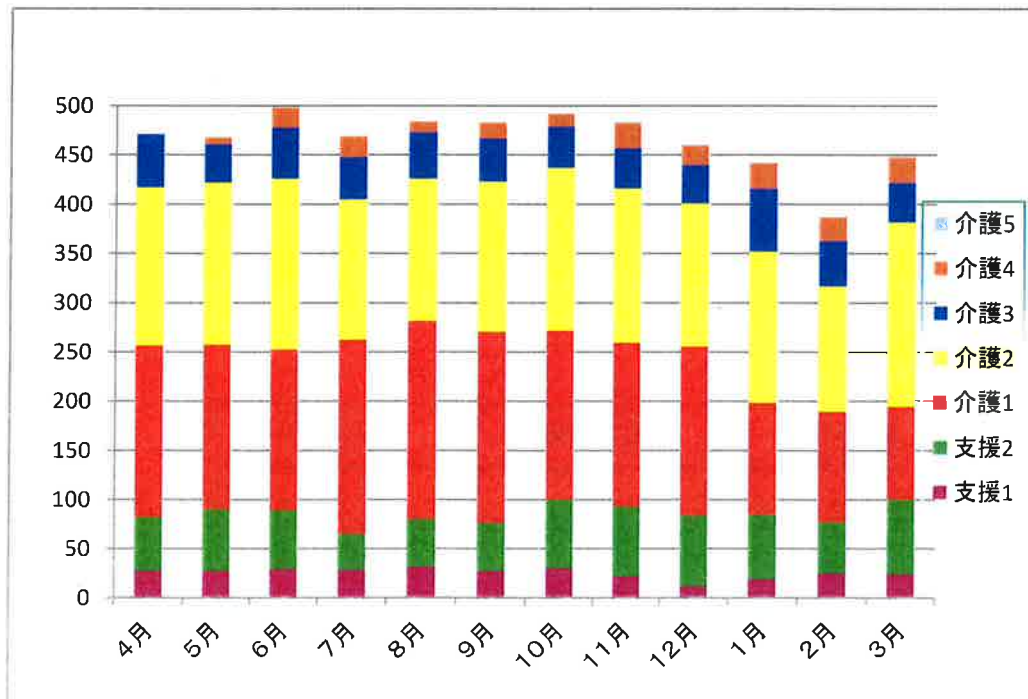


〔2〕平成28年度 延人数

要介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
要支援1	27	27	29	28	31	27	30	22	12	19	25	24	301	25.1
要支援2	55	63	60	37	49	49	70	71	72	66	52	76	720	60.0
要介護1	175	168	164	198	202	195	172	167	172	114	113	95	1935	161.3
要介護2	160	164	173	142	144	152	165	156	145	153	127	187	1868	155.7
要介護3	54	39	52	43	47	44	42	41	39	64	46	40	551	45.9
要介護4	0	7	20	21	11	16	13	26	20	26	24	26	210	17.5
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
総合計	471	468	498	469	484	483	492	483	460	442	387	448	5585	465.4

(注) 平均は、少数点以下第2位を四捨五入しています。

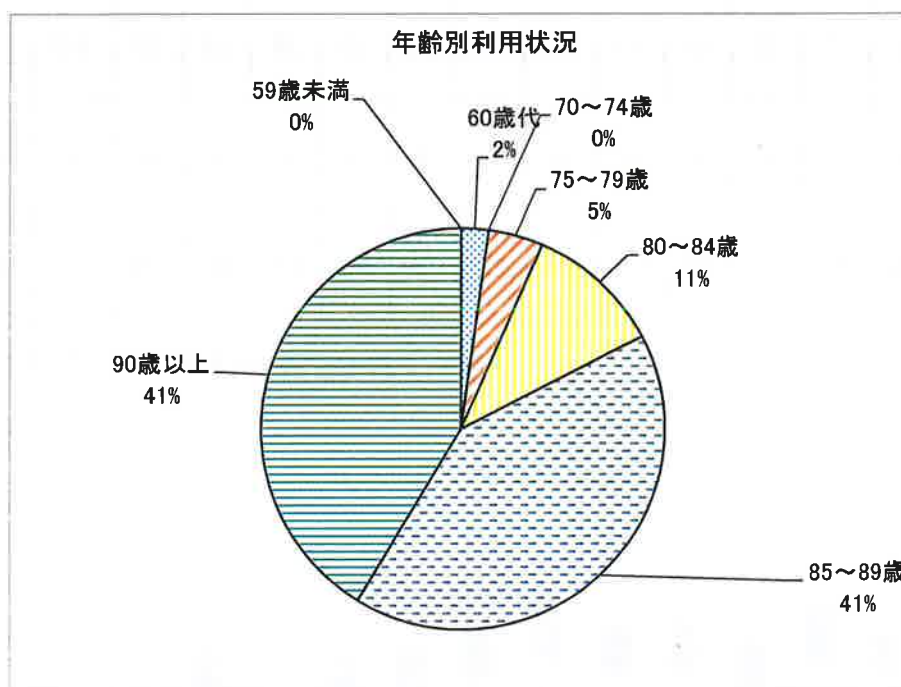
延人数表



4 年齢別利用者状況

(平成29年3月31日現在)

区分	59歳未満	60歳代	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	合計
予防	0	0	0	1	2	5	4	12
介護	0	1	0	1	3	14	15	34
計	0	1	0	2	5	19	19	46



区分	最低年齢	最高年齢	平均年齢
男性	63	92	83
女性	75	98	87.8
全体	63.5	94.5	85.4

(注) 平均は、少数点以下第2位を四捨五入しています。

5 利用者の居住状況

〔1〕地区別利用者数

(平成29年3月31日現在)

南あわじ 地区

区分	広田 広田	広田 中筋	山 添	中条 徳原	中条 中筋	中条 広田	倭文 庄田	倭文 土井	志知 志知	松帆 志知川	松帆 西路	合計
男	2	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	6
女	1	10	2	1	1	3	2	2	0	2	1	25
計	3	11	2	1	2	4	2	2	1	2	1	31

洲本 地区

区分	前 平	木 戸	宇 山	大 野	物 部	納	宇 原	金 屋	鮎 屋	池 内	本 町	合計
男	0	1	1	0	0	0	1	0	1	1	0	5
女	3	0	1	1	1	2	0	1	0	0	1	10
計	3	1	2	1	1	2	1	1	1	1	1	15

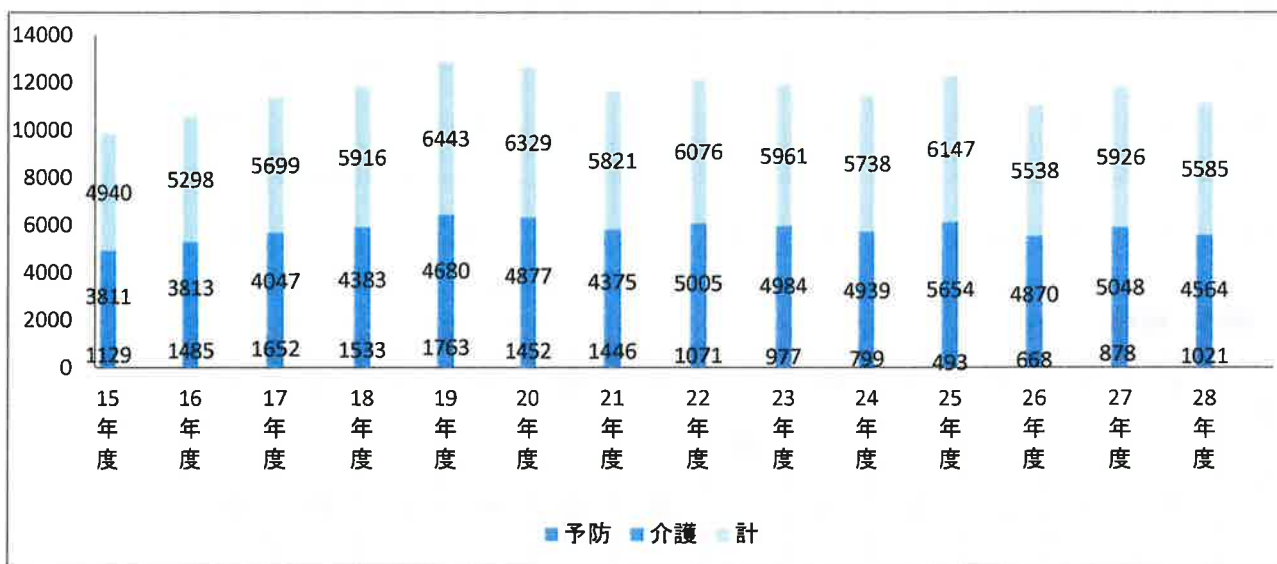
〔2〕世帯構成別利用者数

区分	家族同居	老人夫婦	独居	合計
予防	7	2	3	12
介護	25	4	5	34
計	32	6	8	46

6 過去利用者状況

過去利用状況（定員25名）

区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予防	1129	1485	1652	1533	1763	1452	1446	1071	977	799	493	668	878	1021
介護	3811	3813	4047	4383	4680	4877	4375	5005	4984	4939	5654	4870	5048	4564
計	4940	5298	5699	5916	6443	6329	5821	6076	5961	5738	6147	5538	5926	5585



7 個別機能訓練加算状況

「要支援訓練加算」 生活機能向上グループ加算:1000円 運動器機能向上加算:2250円 /月

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
生活機能向上	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
運動器機能向上	7	10	10	10	8	9	8	6	7	9	11	11	106

「要介護個別訓練加算」 個別機能訓練加算Ⅱ:500円 /人 「認知症加算」 認知症加算:420円 /人

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
個別機能Ⅱ	実	23	23	21	21	21	20	20	18	19	18	15	18	237
	延	248	215	205	203	229	199	198	198	204	162	143	225	2429
認知症加算	実	13	13	11	11	11	10	12	12	13	12	11	10	139
	延	137	115	98	107	102	85	89	95	113	88	81	87	1197

8 レクリエーションを通し、人とのコミュニケーションの中で活性化、生きがいを創出した活動を実施した。



9 誤嚥性予防を目的に嚥下機能と呼吸機能の向上のため、「パタカラ体操」「吹き戻し運動」などの活動を実施した。



10 認知症予防を目的に、「考える」「挑戦する」「判断する」など脳の活性化に努めた。



11 社会的行動を目的に外出会の活動参加を実施した。

恒例の外出行事、あわじ花さじき、イングランドの丘、福良の足湯、うずしおクルーズ、イルローザ喫茶、八木食堂での食事など、普段行けない箇所へ行き、本人、家族に喜んで頂けた。





12 事業計画に対しての取り組みと結果

- ・利用者数25名の維持確保については、平成28年度の新規利用者は、要支援2名、要介護者9名で前年度を比較すると増えた。しかし、結果、一日の平均利用者数は、21.7名であった。
- ・以前と変わらず自立支援を目的にデイフロア環境作りに努めた。利用者同士が協力し合い、助け合いながら、活動している姿が多く見られるようになった。
- ・誤嚥性肺炎予防として、口腔体操や吹き戻しを使った肺活量の向上に取り組んだ。
- ・利用者を確保するために、島内(南あわじ市、洲本市)の居宅支援事業所を訪問した。またブログに投稿したりとデイサービスの広報活動に努めた。
- ・安全と安心のある環境作りについて、徹底した手洗いと消毒を実施するとともに、家族との連携により体調管理に努めた結果、デイ利用者の感染症発生を防止することができた。

V 小規模多機能型居宅介護事業

1 施設の概要

- [1] 名 称 みどりの家
- [2] 所在地 兵庫県南あわじ市広田広田424-1
- [3] 開 設 平成21年4月1日
- [4] 設置運営 社会福祉法人 緑風会
- [5] 利用定員 登録 25名 通い 15名 泊まり 9名
- [6] 土地・建物 敷地面積 247.93㎡(借地)
- 建物構造 鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺2階建
- 建物延面積 372.48㎡

2 事業実績報告

[1] 月別登録者数・サービス利用状況

区分	登録 人数	通い		泊り		訪問	
		実人数	延べ人数	実人数	延べ人数	実人数	延べ人数
4月	20	19	409	10	217	6	85
5月	20	19	400	9	202	6	86
6月	20	19	351	8	178	5	78
7月	20	19	390	9	199	6	80
8月	20	19	399	9	200	6	78
9月	21	20	391	9	195	6	83
10月	21	20	404	8	201	6	82
11月	18	17	371	9	200	5	79
12月	19	18	365	8	193	5	79
1月	18	17	369	11	223	5	77
2月	17	16	331	8	182	7	99
3月	18	17	380	11	217	6	111

〔2〕地域・男女別登録者の状況

地域	男性	女性	合計
広田中筋	1	3	4
広田広田	1	8	9
中条中筋	0	1	1
山 添	0	2	2
倭文長田	0	1	1
市 円行寺	1	0	1
合 計	3	15	18

[平成29年3月31日現在]

〔3〕要介護度別登録者の状況

区分	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	申請中	合計
4月	2	2	7	3	0	1	5	0	20
5月	2	2	7	3	0	1	5	0	20
6月	2	2	9	1	1	1	4	0	20
7月	2	2	9	1	1	1	4	0	20
8月	2	2	8	1	2	1	4	0	20
9月	2	2	9	1	2	2	3	0	21
10月	2	2	7	3	2	2	3	0	21
11月	1	2	7	1	2	2	3	0	18
12月	1	2	7	2	2	2	3	0	19
1月	1	2	7	2	1	2	3	0	18
2月	1	2	7	2	0	2	3	0	17
3月	1	2	7	2	0	2	3	1	18
平均	1.58	2.00	7.58	1.83	1.08	1.58	3.58	0.08	19.3

3 平成28年度事業計画に対しての取り組みと結果

〔1〕運営の方針については、利用者の人格の尊厳、人権の尊重を最優先に自立した日常生活が送れるよう
又、その人らしくゆとりと安らぎに満ちた生活が送れるよう、下表の行事を実行する事を中心に支援した。

月	年間行事
4月	お花見【雨天中止】
5月	広田小中運動会見学（14日・8名）
6月	南淡路ロイヤルホテル 観劇(6日・4名)(17日・3名)(20日・7名)
7月	七夕祭り(7日・11名)
8月	夏祭り(9日・19名)
9月	敬老会(21日・13名)
10月	運動会(10日・10名)
	外出会イルローザ(13日・4名)(17日・4名)(24日・6名)(28日・3名)
11月	南あわじ市文化展出品・見学(1日・8名)(2日・1名)(3日・3名)
12月	クリスマス会(23日・9名)
	もちつき会(雨天中止)
1月	新年会(20日・11名)
2月	豆まき会(3日・11名)
3月	ひな祭り会(3日・12名)
	広田梅林散策(8日・5名)

[2]小規模多機能型居宅介護計画については、利用者の心身状況や環境の現状に応じて希望を踏まえ、在宅で自立した日常生活が続けられる支援をすることができた。

- ・自立支援を目標に個々の心身状況にあった掃除や調理の手伝い、野菜作りを取り入れ利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持・回復を支援した。
- ・近隣の方や親せきの方が来所し、自由に語り合ったり触れ合える場を提供した。
- ・独居高齢者の安心・安全を目的とした訪問を支援した。(食事・服薬確認・安否確認等)
- ・毎日、昼食前に音楽に合わせた体操を行うなどして嚥下機能の保持や筋力低下を防いだ。
- ・福祉用具購入及びレンタル等を提案し住環境を整えた。
- ・主治医による訪問予防接種施行(インフルエンザ・肺炎球菌ワクチン)
- ・車椅子等で病院に行けない方を送迎(同行)している。主治医へは「看護師より情報提供書を作成して関係医療機関と連携を図って健康維持に努めた。
- ・急な利用時間の延長や利用日の変更に対応し、家族の介護負担軽減を図ることができた。
- ・身体面の相談や書類の説明などの相談援助を行い、利用者や家族の不安を取り除いた。

[3]提供サービスについては、個々の生活の中で機能の減退を防止するよう次のとおり努めた。

- ・受診の送迎 ・買い物 ・野菜作り及び収穫援助 ・洗濯たたみ ・裁縫 ・おやつ作り ・外食会等
- ・調理手伝い ・文化展作品作り ・掃除 ・テーブル拭き ・地域行事参加 ・体操 ・ドライブ等

[4]その他

- ・地域住民の入所相談受け付けやボランティアの受け入れ等、地域介護力の強化に努めた。
(夏祭りには老人会緑支部有志による歌と踊り・敬老会には山添なかよし会など)
- ・権利擁護は、社協と連携をとり成年後見制度を利用された方が1名いる。
- ・防災訓練(広田中学校)参加と自治会主催の訓練に参加し、利用者と職員が防災意識を高めた。
- ・地域の営農団体等に協力いただき、季節の行事や趣味教室にも参加した。
- ・個々に合った食事形態(刻み・トロミ)や嗜好・病歴を考慮し、旬の食材で美味しい食事を提供できた。
- ・夏祭り終了後に、家族の皆様にご意見や要望をうかがう機会を設けることができた。
- ・経営の安定化については、利用者の定着と新規利用者(6名)と受け入れたが特養入所や入院等により(7名)が登録抹消となっている。
- ・各種マニュアルを細分化し質の向上に努めた。又、ひやりハット報告書については、再度発生しないように対策を講じた。
- ・運営推進会議は、6回実施し、地域とのつながりが一層深まり有意義な会議となった。又、得られた要望・助言をサービスに反映している。
- ・南あわじ市の介護支援専門員会へ7回出席して、介護保険の情報や他事業所と情報交換することができた。
- ・緑地区地域ケア会議に出席し地域のニーズ把握、地域の関係者との連携を図ることができた。
- ・事業所内に運営内容を写真入りで掲示し、季節ごとに更新して紹介した。

VI 居宅介護支援事業

1 施設の概要

- [1] 名 称 社会福祉法人 緑風会 緑風館
 [2] 所 在 地 兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
 [3] 開 設 平成11年10月1日
 [4] 設 置 運 営 社会福祉法人 緑風会
 [5] 併 設 施 設 特別養護老人ホーム 緑風館

2 新規登録者数

区 分	27 年度	28 年 度												合計	平均
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
要支援 (1,2)	24	1	2	1	5	3	1	4	1	1	0	4	0	23	1.9
要介護 (1~5)	52	3	2	4	3	0	3	1	1	1	1	0	1	20	1.7
合計	76	4	4	5	8	3	4	5	2	2	1	4	1	43	3.6

内訳

区 分	27 年度	28 年 度												合計	平均	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
要支援	24	1	2	1	5	3	1	4	1	1	0	4	0	23	1.9	
要介護	直接 依頼	21	1	1	3	0	0	1	1	1	0	0	0	1	9	0.8
	要 支援 から 変更	6	2	1	0	2	0	2	0	0	1	0	0	0	8	0.7
	他 事業 所か ら 変更	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	3	0.3
合計	52	4	4	5	8	3	4	5	2	2	1	4	1	43	3.6	

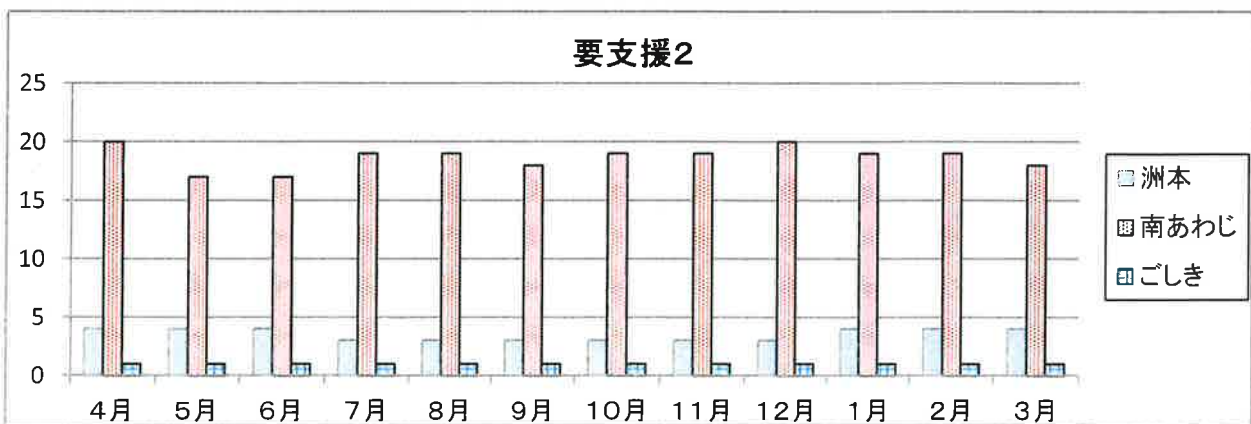
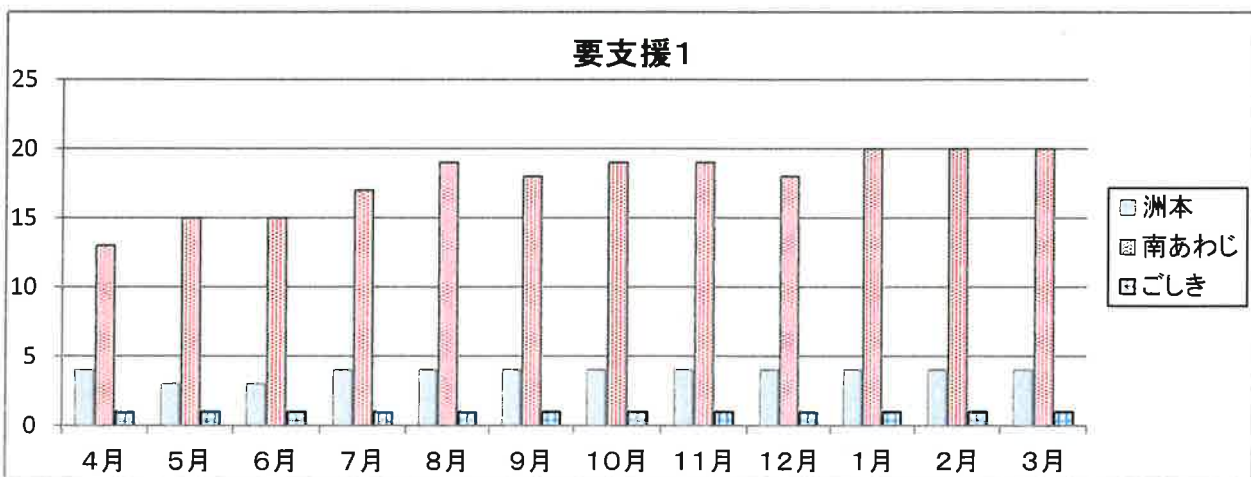
3 予防給付プラン作成実績

(件)

区分		27年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均	
予防プラン	要支援1	洲本	38	4	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	46	3.8
		南あわじ ごしき	215	13	15	15	17	19	18	19	19	18	20	20	20	213	17.8
		ごしき	12	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	1.0
	要支援2	洲本	41	4	4	4	3	3	3	3	3	3	4	4	4	42	3.5
		南あわじ ごしき	184	20	17	17	19	19	18	19	19	20	19	19	18	224	18.7
		ごしき	12	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	1.0
合計		502 (127)	43 (10)	41 (10)	41 (9)	45 (11)	47 (13)	45 (13)	47 (15)	47 (14)	47 (14)	49 (13)	49 (13)	48 (12)	549 (147)	45.8 (12.3)	

※ 括弧内数字は、保険外サービスを組み合わせたケアプラン作成数(内数)である。

※ 保険外サービスには、配食サービス、ふれあい・いきいきサロン、ミニデイサービス、緊急通報システム等のサービスを組み合わせた。



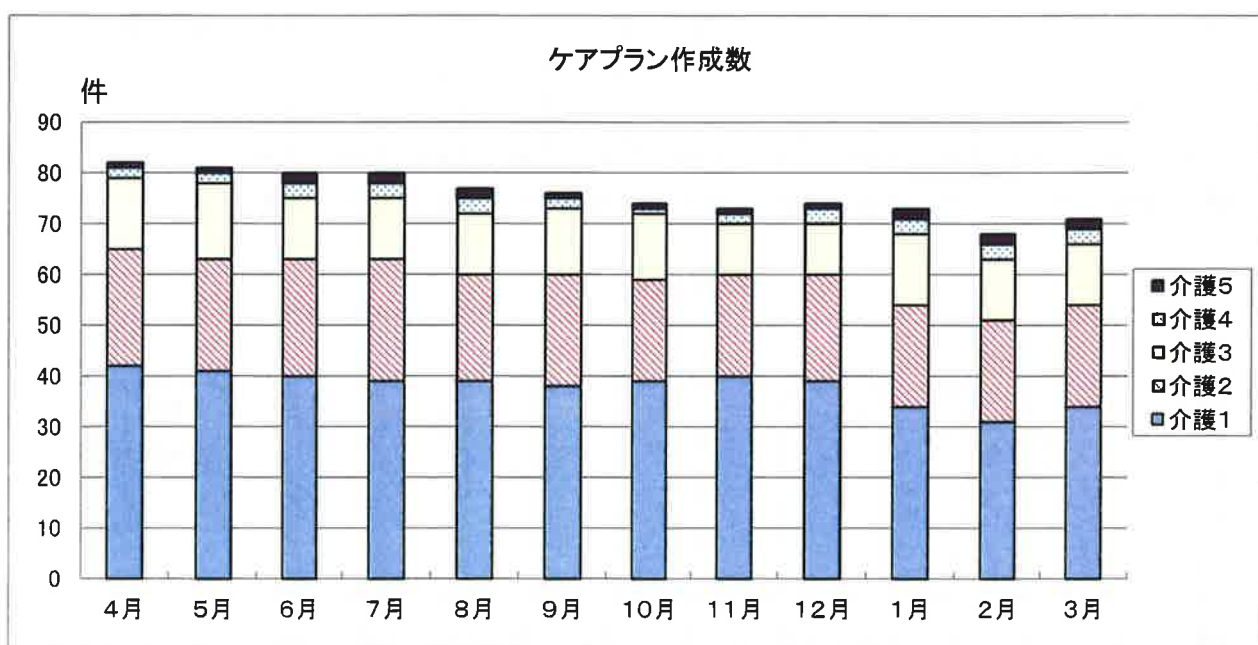
4 介護給付ケアプラン作成実績

(件)

区分	27年度	28年度												合計	平均
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
要介護1	481	42	41	40	39	39	38	39	40	39	34	31	34	456	38.0
要介護2	268	23	22	23	24	21	22	20	20	21	20	20	20	256	21.3
要介護3	169	14	15	12	12	12	13	13	10	10	14	12	12	149	12.4
要介護4	54	2	2	3	3	3	2	1	2	3	3	3	3	30	2.5
要介護5	17	1	1	2	2	2	1	1	1	1	2	2	2	18	1.5
合計	989	82	81	80	80	77	76	74	73	74	73	68	71	909	75.8
	(113)	(11)	(12)	(12)	(12)	(12)	(11)	(12)	(12)	(11)	(12)	(11)	(10)	(138)	(11.5)

※ 括弧内数字は、保険外サービスを組み合わせたケアプラン作成数(内数)である。

※ 保険外サービスには、配食サービス、ふれあいいきいきサロン、外出支援サービス
ミニデイサービス、緊急通報システム等のサービスを組み合わせた。



5 認定調査実績

(件)

洲本市	27年度	28年度												合計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
在宅	36	3	4	3	3	2	2	3	3	3	2	3	3	34
自施設	7	1	1	0	1	2	1	1	0	2	0	0	2	11
他施設	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合計	50	4	5	3	4	4	3	4	3	5	2	3	6	46

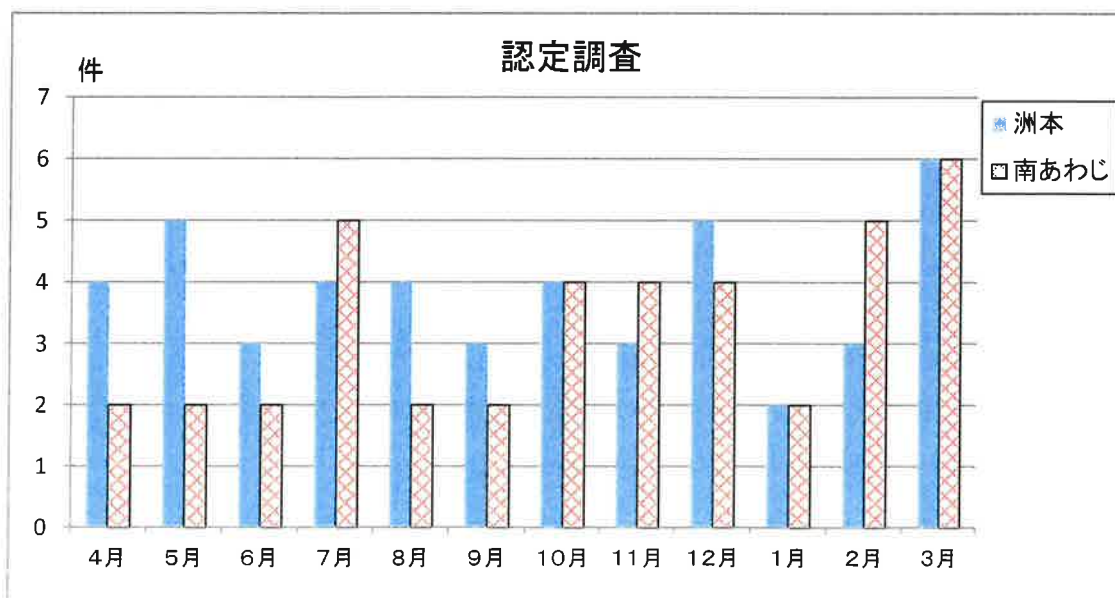
(件)

南あわじ市	27年度	28年度												合計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
在宅	27	0	2	2	2	2	2	2	2	2	1	3	4	24
自施設	18	2	0	0	3	0	0	2	2	2	1	2	2	16
他施設	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	47	2	2	2	5	2	2	4	4	4	2	5	6	40

* 南あわじ市においては、23年度から市の調査員が調査を行う方針となり、調査件数が減少が継続。

南あわじ市へは、調査の依頼をしている。

* 洲本市においては、平均しての依頼がある。



6 加算状況

(件)

区分	27年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
予防プラン	初回	31	2	2	1	5	3	1	4	1	1	4	0	0	24
	小規模連携	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護プラン	初回	30	2	2	4	3	1	3	1	1	1	3	0	1	22
	医療連携Ⅰ	11	0	2	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	6
	医療連携Ⅱ	22	4	1	2	3	4	2	2	0	1	2	2	1	24
	退院	26	1	1	3	3	0	1	2	2	1	3	2	2	21
	緊急時等居宅カンファレンス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	複合型サービス連携	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小規模連携	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	特定事業所Ⅱ	989	82	81	80	80	76	76	74	73	74	73	68	71	908
合計	1110	91	89	90	95	84	84	84	77	78	86	72	75	1005	
独居高齢	172	14	14	14	13	14	14	13	14	14	14	17	16	171	
認知症	170	13	12	11	10	10	9	9	12	12	13	14	12	137	

※ 加算の説明について

初回 : 初めてのサービス利用開始、または要介護度区分が3段階以上の変更認定、または3か月以上サービス利用していない場合で利用再開

1回あたりの単価 ¥3,000×22名=¥66,000

初回加算該当者であって、退院加算の算定者3名いた。(同時算定不可)

医療連携Ⅰ: 入院時に、医療施設へ訪問し、在宅での状況について情報提供を行った場合

1回あたりの単価 ¥2,000×6名=¥12,000

医療連携Ⅱ: 入院時に、医療施設へ訪問以外の方法で、在宅の状況について情報提供を行った場合

1回あたりの単価 ¥1,000×24名=¥24,000

退院 : 退院時に医療施設と連携をとった場合

1回あたりの単価 ¥3,000×21名=¥63,000

特定事業所: 主任介護支援専門員を配置。24時間連絡体制を確保し、必要に応じて相談に対応する。

加算Ⅱ 1件あたりの単価 ¥3,000×908件=¥2,724,000

* その他の加算に関しても、利用者の状態に応じて算定を行った。

* 連携に関しては、利用者・家族の承諾のもとで行い、その後のサービス調整にも繋がった。

* 認知症加算、独居高齢者加算については、平成27年度より基本報酬に組み込まれている。

7 平成28年度の事業計画に対しての取り組みと結果

- [1] ・利用者や家族からケアプランの見直しなどの要望があった場合、迅速に対応してケアプランの変更を行った。
今年度は、13名の内容を変更。状態の変化により、サービス内容の変更や追加を行った。
又、介護保険外のサービスについても説明し、要介護者12名、要支援者15名の計画作成を行った。
・入院・退院時には、医療機関の訪問や電話連絡等で連携を図り、退院後の在宅生活が安全に送れるようにサービス等の調整を図り、14名の計画作成を行った。
- [2] ・かかりつけ医との連携に関しては、体調の急変時などに訪問、電話等で連絡・調整を図った。
また、利用者ご本人や家族を通じて情報交換を行ったり、了解のもと受診時に付き添い、かかりつけ医と顔の見える連携を図った。
また、医療と介護の連携に関する研修会に参加し、現状や今後の課題を確認し、更なる連携の必要性を感じた。
- [3] ・利用者の家族や当法人職員からの相談に対し、制度の説明や申請代行等を行うことで良好な関係を築き、適時の介護サービスを利用することで、在宅生活が継続できるよう支援した。
・月平均実績として、要介護者75.8件(前年比、6.6件減)、要支援者 45.8件(前年比、4件増)の居宅介護支援を提供できた。
・今年度は、介護の新規依頼が昨年より少なく20件であった。要支援に関しては、昨年と変わらず23件の新規依頼があった。軽度の認定者が多く、介護度が高い利用者は、状態の変化もあり、施設への入所や入院への移行が一昨年から多く、継続支援が難しい。
- [4] ・困難ケースに関しては、地域包括支援センターや他のサービス事業者と連携を図り、早急に介護サービス提供へと繋ぎ、居宅介護支援を行った。
・今年度も、地域包括支援センターと連携し、成年後見制度の支援を行い、在宅支援を行った。
サービス事業所との情報交換も毎月行っており、良好な関係を築いている。
・24時間連絡体制を整備し、これを周知することで、利用者・家族からの要望にいち早く対応することができた。
- [5] ・週1回のミーティングを実施することで、困難ケースを事業所全体でカバーできる体制を整えている。
困難事例等については、その都度、事業所内での検討を行い、必要に応じて地域包括支援センターに相談しサービスに反映させていった。
・毎月開催される南あわじ市と洲本市の介護支援専門員連絡会へ22回出席し、最新の介護保険情報や事業所の情報、地域の情報収集に努めている。また、他事業所の介護支援専門員とも情報交換を行い、居宅介護支援に反映させた。

VII 在宅介護支援センター

1 施設の概要

- [1] 名 称 緑風在宅介護支援センター
- [2] 所 在 地 兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
- [3] 開 設 平成6年6月27日
- [4] 設 置 運 営 社会福祉法人 緑風会
- [5] 併 設 施 設 特別養護老人ホーム 緑風館

2 活動実績

(件)

区 分	27年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	
活動日数	開所日数	256	17	22	23	22	14	13	23	22	23	19	20	20	238 日
	訪問回数	97	6	5	5	6	1	3	9	8	8	19	23	13	106 回
	会 議	39	2	3	4	3	2	1	2	3	4	3	3	5	35 件
	家 族 会	6	0	0	0	1	0	0	1	2	1	0	0	0	5 件
	出前指導	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 件
	新 規 出前指導	18	0	2	1	2	1	0	3	1	1	0	3	0	14 件

- ※ 訪問回数は、相談依頼への対応と、市依頼の配食サービス、紙オムツ補助のアセスメント調査である。
- ※ 出前指導は2回目以降の認知症サポーター養成講座、新規出前指導は初回の認知症サポーター養成講座である。

3 会議の内訳

(件)

区 分	27年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
地域包括在介 連絡会	10	1	1	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	10
その他の会議	9	0	0	1	1	1	0	0	0	1	0	0	2	6
合 計	19	1	1	2	2	1	0	1	1	2	1	1	3	16

- ※ 上記の表と以外に、緑地区民生委員会と緑地区地域ケア会議は毎月出席している。
- ※ その他の会議は、各在宅介護支援センターとの打ち合わせ会議、研修などである。

4 相談会・出前指導の内訳

(件)

区 分	27年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
いきいき百歳 体操	18	1	3	2	1	0	0	1	1	0	0	1	0	10
認知症サポ ーター養成講座	20	0	2	1	2	1	0	3	1	1	1	3	0	15
合 計	38	1	5	3	3	1	0	4	2	1	1	4	0	25

5 調査訪問内容別実績

(件)

区 分	27年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
オムツ調査	23	2	0	1	0	0	0	1	1	1	7	8	5	26
配食調査	21	0	1	0	2	0	0	2	1	1	5	8	1	21
継続見守り	55	4	4	4	4	1	3	6	6	6	7	7	7	59
合 計	99	6	5	5	6	1	3	9	8	8	19	23	13	106

6 平成28年度 事業計画に対する取り組みと結果

〔1〕認知症に対する正しい理解の普及

市内在宅介護支援センターと協力し、「認知症サポーター養成講座」を開催、また新聞やケーブルテレビのメディアを利用し普及活動を行ない、認知症に対する理解を積極的にアピールした。結果、地域の団体から講座依頼があり、認知症サポーターを増やすことができた。学生に対しても認知症の理解が広まった。



(西淡中学校)

〔2〕地域住民からの相談に対する窓口機能

各地区のいきいき百歳体操を支援する中で、生活の中での困りごとを聞き取り、支援サービスに繋げている。民生児童委員の定例会に参加することで、民生委員と協力して支援体制をとっている。身近な高齢者の窓口としての機能を発揮でき、サービスや見守り体制を強化することができた。



(倭文公民館のいきいき百歳体操)

〔3〕地域ケア会議の充実について

独居や高齢者世帯だけでなく、同居世帯において地域で見守りが必要な世帯に対して適切に対応することができた。

また、各地区の民生委員が交代で出席し、病院や社協、ケアマネ、みどりの家などが参加し、高齢者等(地域)の情報共有ができ早期に対応できた。



(みどり福祉ふれあいつどい)

〔4〕家族会の継続支援について

南あわじ市の認知症を支える家族の会(スマイル)は、参加者が自主的に運営することができた。互いに協力し合い、いろいろな会話の中から、介護についての悩みや癒し、工夫などを共有できるようになってきた。毎月1回定例会とは別に、認知症カフェを運営。認知症に関することを知りたい人なら誰でも参加できる場所となっている。



(家族会定例会)

Ⅷ 地 域 交 流 実 績

区分	ボランティア名(敬称略)	内 容	人 数
4月	ビハーラとも	お話し相手	10
	西村 真	色紙絵	1
5月	ビハーラとも	お話し相手	11
6月	ビハーラとも	お話し相手	11
	倭文小学校	交流会	訪問
	調理ボランティア	行事(喫茶コーナー)	3
	西村 真	色紙絵	1
7月	調理ボランティア	行事(喫茶コーナー)	1
	広田保育園	七夕祭り	30
	ビハーラとも	お話し相手	10
	ビハーラとも	納涼祭	21
	楽衆～輪～	納涼祭	13
	賀集十二志会	納涼祭	18
	倭文中学校音楽部	納涼祭	13
	淡路三原高校和太鼓部	納涼祭	12
	パナソニック かけはし連	納涼祭	10
	社協ボランティア	納涼祭	3
	元職員	納涼祭	4
8月	広田少年野球クラブ	清掃奉仕	15
	調理ボランティア	行事(喫茶コーナー)	3
	傾聴ボランティア体験	お話し相手	1
9月	民舞寿会	敬老会行事	4
	長尾章カルテット	敬老会行事	4
	ビハーラとも	お話し相手	9
	南あわじ市敬老会	敬老会式典	訪問
	傾聴ボランティア体験	お話し相手	1
	調理ボランティア	行事(喫茶コーナー)	3
10月	ビハーラとも	お話し相手	10
	うずしお学園パソコンクリック	絵手紙	9
	うずしお学園大正琴クラブ	大正琴演奏	11
11月	倭文小学校・中学校	ふくちゃん祭り	訪問
	広田中学校	文化祭	訪問
	調理ボランティア	行事(喫茶コーナー)	2

12月	ビハーラとも	お話し相手	13
	伊達 節子他	もちつき	2
	倭文少女バレークラブ	もちつき	5
	広田保育園	クリスマス会行事(唄、踊り)	44
	南あわじ市老人クラブ連合会	友愛訪問(唄、踊り)	40
	調理ボランティア	行事(喫茶コーナー)	2
1月	西村 真	色紙絵	1
	CHIZURU	新年会行事・歌とギター	2
	ビハーラとも	お話し相手	10
	調理ボランティア	行事(喫茶コーナー)	3
3月	紅扇	日本舞踊	5

合計 371人

